２０２４年度

文 学 研 究 科
学生募集要項

〈Ⅰ期募集・Ⅱ期募集〉

国文学専攻	博士課程前期・後期
英文学専攻	博士課程前期・後期
日本常民文化専攻	博士課程前期・後期
美学・美術史専攻	博士課程前期・後期
コミュニケーション学専攻	博士課程前期・後期
ヨーロッパ文化専攻	博士課程前期・後期

新型コロナウイルス感染症対策により、本要項に記載の選抜方法・試験日時等を変更する場合は、ホームページでお知らせします。

成 城 大 学 大 学 院

目　　次

文学研究科の概要 …… 3
文学研究科の人材育成の目的と３つの方針 …… 4

Ⅰ期募集（9 月入試）
1．試験日程 …… 6
2．募集人員・出願資格 …… 7
3．事前審査・出願資格の確認 …… 8

Ⅱ期募集（2 月入試）
4．試験日程 …… 10
5．募集人員・出願資格 …… 11
6．事前審査・出願資格の確認 …… 12

Ⅰ期募集・Ⅱ期募集共通
7．出願資格の詳細 …… 14
8．選抜方法・学力試験時間割（筆記試験・口述試問） …… 18
9．出願書類 …… 20
10・11・12. 出願手続・入学検定料・受験票の交付 …… 22
13・14. 学費・合格者発表および入学手続 …… 23
15. 各種制度のご案内 …… 24

教員推薦入試 …… 28

授業科目および研究指導担当者 …… 30

専任教員の紹介 …… 43

個人情報の取り扱いについて

出願および入学手続にあたってお知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、成城学園個人情報保護方針に基づき適切に管理し、出願処理、入学試験実施、合格者発表、入学手続、学籍管理業務およびこれらに付随する事項、個人を特定しない形での統計資料の作成を行うために利用します。

上記の業務は、その一部の業務を成城大学が委託した業者において行います。業務委託にあたっては、十分な個人情報保護の水準にある企業を選定し、漏えいや目的外利用を行わないよう契約により義務づけ、適切な管理を行います。

文学研究科の概要

目　　的

本大学院は、高度にして専門的な学術の理論と、その応用とを研究し、それらの深奥を究めるとともに、人間の尊厳を自覚した社会人として、文化の進展と人類の福祉とに寄与すべき人物を養成することを目的とする。

博士課程前期は、広い視野に立って専攻の分野を研究し、精深な学識と研究能力とを養成する。

博士課程後期は、独創的な研究によって、独自の学問的領域を開拓し、学術の水準を高めるとともに、専攻分野に関して研究を指導する能力を得させる。

収容定員

	専　　攻	博士課程前期		博士課程後期		全体
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	収容定員
文学研究科	国文学専攻	10	20	5	15	35
	英文学専攻	10	20	5	15	35
	日本常民文化専攻	10	20	5	15	35
	美学・美術史専攻	10	20	5	15	35
	コミュニケーション学専攻	10	20	5	15	35
	ヨーロッパ文化専攻	10	20	5	15	35

全専攻の入学定員には、若干名の内部推薦の枠を含む。

履修方法

1．博士課程前期を修了するためには、2年以上在学し（ただし、英文学専攻の早期修了制度及び教員早期修了制度の場合はこの限りではない）、所定の単位を修得し、修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

2．博士課程後期を修了するためには、博士課程前期（または修士課程）に加えてさらに3年以上在学し、所定の単位を修得し、博士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

学位授与

博士課程前期の課程を修了した者に対しては、研究科教授会の議を経て修士（文学）の学位を、博士課程後期を修了した者に対しては、研究科教授会の議を経て博士（文学）の学位を授与する。

文学研究科の人材育成の目的と３つの方針

Ⅰ．課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

次の条件を満たした者には、当該課程を修了したことを認める。

１．博士課程前期：修士（文学）

（１）当該分野において自律的に研究活動を展開できる能力を有していること。

（２）自らの知見を他者に客観的かつ説得的に伝達するための理論構築と表現方法を身につけていること。

（３）教育機関、文化行政機関、研究機関、その他専門知識を必要とする諸方面において、自らの学問的営為や成果を踏まえて、適切な活動を展開する能力を身につけていること。

２．博士課程後期：博士（文学）

修士の学位に必要な条件に加え、より高度な専門性を身につけ、研究者として独創的な活動を展開できる能力を身につけていること。

Ⅱ．教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに示した能力を身につけるため、次の方針で教育課程を編成し、実施します。

１．博士課程前期

（１）学生の自律的研究能力を養成する目的で、授業は講義形式とともに、学生の積極的発表と議論に基づくゼミナール形式を重視します。

（２）カリキュラム編成の基本原理として、まず、専門分野に関する高度な内容の授業を提供することにより、人間と世界に関する学生の知識と洞察を深めることを目指します。次に、学生が幅広い教養を身につけ、広く社会で活躍するに資する知見を得られるよう、専攻間の垣根をできる限り低くします。また、全研究科間での単位互換制度を導入しており、学生に大きな選択肢を与えています。

（３）個別の研究指導を通じて、学生の研究を導くとともに、自らの考えを的確に表現する能力を伸ばすことによって、修士論文執筆に繋げます。

（４）授業は研究指導を含め、基本的にセメスター制とし、学生の興味関心に柔軟に対応するとともに、留学を容易にします。また、長期履修学生制度により、多様な学修形態を可能にします。

（５）教職課程および学芸員課程の履修を可能にし、教員免許および学芸員資格を取得する機会を与えます。さらに社会イノベーション研究科が提供する所定の授業を履修することにより、専門社会調査士の資格取得も可能にします。

２．博士課程後期

（１）学生の自律的研究能力を強化するため、授業は学生の研究発表を主体としたゼミナール形式を基本とします。

（２）授業内での研究発表を通じて、発表能力の向上に努めます。また、発表後のディスカッションを通じて、他者の疑問を正確に把握し、的確に答える能力を養います。

（3）カリキュラム編成の基本原理として、学問的刺激に満ちた専門科目を提供します。並行して、博士論文執筆の要件を明確化するとともに、指導教員による定期的な研究指導を行い、在学中の博士論文提出を促します。
（4）国内だけでなく、海外での学会発表を推奨し、それに向けた研究指導を行うとともに、本研究科独自の支援制度により、発表を容易にする環境を整備します。
（5）授業は研究指導を含め、基本的にセメスター制とし、学生の興味関心に柔軟に対応するとともに、留学を容易にします。また、長期履修学生制度により、多様な学修形態を可能にします。
（6）教職課程および学芸員課程の履修を可能にし、教員免許および学芸員資格を取得する機会を与えます。さらに社会イノベーション研究科が提供する所定の授業を履修することにより、専門社会調査士の資格取得も可能にします。

Ⅲ．入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

次の条件を満たす人を入学者として求めます。

1．博士課程前期

（1）学術論文を執筆するための基礎学力、柔軟かつ批判的に思考する能力および自律的に研究する能力を有する人。
（2）文学研究科の学問について、旺盛な関心と探究心を有する人。
（3）自らの個性を自覚し、それを伸長させることに意欲的である人。

2．博士課程後期

博士課程前期への入学に必要な条件に加え、より高度で独創的な研究を遂行する素質に富み、その実現に熱意を持って取り組む人。

Ⅰ期募集
(9月入試)

1．試験日程

出願期間	2023年8月22日（火）～9月1日（金） ※「出願受付」項目を確認すること。
試験日	2023年9月23日（土） ※「試験当日」項目を確認すること。
合格者発表	2023年9月25日（月）10：00　※23頁参照
入学手続期間	2023年9月26日（火）～10月19日（木） ※「入学手続」項目を確認すること。

○出願受付：出願期間中に「入学検定料の支払い」「出願書類の提出」を行うこと。
締切日は締切時間を設けているため注意すること。
入学検定料の支払いは、締切日15：00まで。
出願書類の提出は、締切日16：00までとし必着とする。

出願書類の提出方法は次の通り。
①郵送出願（書留便）
②入学センター持参（2号館1階）
平　日：9：00 － 16：00
土曜日：9：00 － 12：00（ただし、8月中旬から9月中旬まで及び年末年始を除く。）
（日曜日、祝日、その他大学の休業日（夏期一斉休業期間、年末年始等）を除く。）

○試験当日：自身が受験する最初の試験科目の試験開始30分前までに大学3号館（巻末「大学校舎案内」参照）に集合のこと。
受験者は、試験開始10分前までに所定の試験場に入ること。試験時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認める。

試験科目の「免除」を申請した者や試験区分で試験科目が免除されている者は、集合時刻に注意すること。
また、口述試問の開始時刻は受験者数等によって前後する場合がある。募集要項の時刻から変更がある場合は、別途受験票等で通知をする。

○入学手続：入学手続期間中に「納付金の納入」「入学手続書類の提出」を行うこと。締切日は締め切り時間を設けているため注意すること。23頁参照。

２．募集人員・出願資格

<table>
<tr><th rowspan="2">課程</th><th rowspan="2">専攻</th><th rowspan="2">募集人員</th><th colspan="3">出　願　資　格</th></tr>
<tr><th>一 般 入 試</th><th>社会人入試</th><th>内部推薦入試</th></tr>
<tr><td rowspan="6">博士課程前期
※注1</td><td>国文学</td><td>５名</td><td rowspan="6">14 頁の表 7 の博士課程前期の出願資格の（1）から（10）に該当する者。</td><td rowspan="6">14 頁の表 7 の博士課程前期の出願資格の（1）から（10）に該当する者で、且つ入学時に大学卒業後 3 年以上を経過している者。
尚、現在職に就いているか否かは問わない。</td><td rowspan="6">成城大学文芸学部を卒業、または卒業見込みの者。

詳しくは『文学研究科内部推薦入試事前審査要領』を参照。※注2</td></tr>
<tr><td>英文学</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>日本常民文化</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>美学・美術史</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション学</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>ヨーロッパ文化</td><td>５名</td></tr>
<tr><td rowspan="6">博士課程後期
※注1</td><td>国文学</td><td>２名</td><td rowspan="6">15 頁の表 8 の博士課程後期の出願資格の（1）から（8）に該当する者。</td><td rowspan="6"></td><td rowspan="6"></td></tr>
<tr><td>英文学</td><td>２名</td></tr>
<tr><td>日本常民文化</td><td>２名</td></tr>
<tr><td>美学・美術史</td><td>２名</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション学</td><td>２名</td></tr>
<tr><td>ヨーロッパ文化</td><td>２名</td></tr>
</table>

※注１　外国人枠は設けないが、それぞれの範疇に外国人受験者が含まれる。
※注２『文学研究科内部推薦入試事前審査要領』は入学センターで入手できる。8 頁参照。

３．事前審査・出願資格の確認について

3-1. 内部推薦入試出願資格審査の申請期間

（表１）

課程	審査申請期間
博士課程前期	2023 年 6 月 30 日（金）から 7 月 14 日（金）16：00 まで（必着）

・申請手続きについて

出願を予定している者は、2 号館 1 階の入学センターで、『文学研究科内部推薦入試事前審査要領』を入手すること。なお、「事前審査」では入学検定料の納付は不要で、「事前審査」の後に出願をとりやめても構わない。

また、3 年生の秋から 1 年間交換留学・認定留学した学生用の事前審査受付期間は別途定めているので、入学センターまで問い合わせること。

3-2. 文学研究科が指定している者の出願期間前の出願資格の確認・審査申請期間

出願資格に応じて、出願期間前に、資格証明書の確認、学力確認、又は入学資格審査がそれぞれ必要となる。表２「出願期間前における出願資格の確認・審査申請期間」内に成城大学入学センターに申請すること。対象となる者は次の通り。

・出願資格 14 頁の表７の（3）から（10）で出願を検討している者
・出願資格 15 頁の表８の（3）から（8）で出願を検討している者
・出願資格 14・15 頁の表７・８の（1）から（2）のうち、16 頁の通り文学研究科が指定した者

（表２）2024 年度入学に係る出願期間前における出願資格の確認・審査申請期間

確認・審査申請期間
2023 年 7 月 24 日（月）から 8 月 21 日（月）16：00 まで（必着）

提出書類

出願資格の確認・審査申請時に必要な書類は、表３の通り。所定の様式は、「成城大学入試情報サイト　成城ブリッジ（https://admission.seijo.ac.jp/）」に掲載しているので、ファイルをダウンロードして印刷し、必要事項を記入の上、メールに添付して提出すること。

書類送付先：成城大学入学センター　　admission@seijo.jp

（表３）2024 年度入学に係る出願期間前における出願資格の確認・審査申請必要書類

提出が必要である書類	備考
（ア）出願期間前における出願資格の確認・審査申請書	本学所定の様式
（イ）履歴書	本学所定の様式
（ウ）自身が該当する表７又は表８中の番号（出願資格）の資格証明書欄に記載されている資格証明書のコピー　※１	出願資格の確認・審査申請時において、証明書類の原本を提出する必要はありません。なお、原本は、本出願時にご提出いただきます。
（エ）最終卒業（修了）校の成績証明書のコピー　※１	出願資格の確認・審査申請時において、証明書類の原本を提出する必要はありません。なお、原本は、本出願時にご提出いただきます。
（オ）志願理由書	1000 字程度の日本語。書式随意
（カ）日本語能力試験（N1 レベル）の合格証明書（写） ※国文学、コミュニケーション学専攻のみ ※日本語を第一言語としない者のみ	出願日から遡って２年以内のもの

※１ 原本（出身学校が発行し、証明した文書）のコピーを提出してください。原文が日本語または英語以外の言語の場合は、原文と併せて日本語または英語による訳文を付けてください。
訳文については、大使館などの公的機関で認証を受けてから提出してください。
卒業（修了）または卒業見込み（修了見込み）証明書を発行できない場合は、学位証明書の原本（出身学校が発行し、証明した文書）のコピーを提出してください。

※２ 出願資格及びその資格証明書等について疑問がある場合は、出願期間前における出願資格の確認・審査申請期間以前の、できるだけ早い時期に入学センターまで問合せること。

Ⅱ期募集
(2月入試)

4．試験日程

出願期間	2023年12月19日（火）～2024年1月12日（金） ※「出願受付」項目を確認すること。
試験日	2024年2月17日（土） ※「試験当日」項目を確認すること。
合格者発表	2024年2月19日（月）10：00　※23頁参照
入学手続期間	2024年2月20日（火）～3月8日（金） ※「入学手続」項目を確認すること。

○出願受付：出願期間中に「入学検定料の支払い」「出願書類の提出」を行うこと。
締切日は締切時間を設けているため注意すること。
入学検定料の支払いは、締切日15：00まで。
出願書類の提出は、締切日16：00までとし必着とする。
Ⅱ期募集の出願に限り、出願期間中に入学センターに申し出をすることにより、出願書類（20頁参照）のうち､卒業論文または修士論文の写しのみ､2024年1月18日（木）まで提出を猶予する。この場合においても、その他の提出を必要とする書類は、出願期日までに必着するように留意すること。

出願書類の提出方法は次の通り。
①郵送出願（書留便）
②入学センター持参（2号館1階）
平　日：9：00 － 16：00
土曜日：9：00 － 12：00（ただし、8月中旬から9月中旬まで及び年末年始を除く。）
（日曜日、祝日、その他大学の休業日（夏期一斉休業期間、年末年始等）を除く。）

○試験当日：自身が受験する最初の試験科目の試験開始30分前までに大学3 号館（巻末「大学校舎案内」参照）に集合のこと。
受験者は、試験開始10分前までに所定の試験場に入ること。試験時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後20分以内の遅刻に限り、受験を認める。

試験科目の「免除」を申請した者や試験区分で試験科目が免除されている者は、集合時刻に注意すること。
また、口述試問の開始時刻は受験者数等によって前後する場合がある。募集要項の時刻から変更がある場合は、別途受験票等で通知をする。

○入学手続：入学手続期間中に「納付金の納入」「入学手続書類の提出」を行うこと。締切日は締め切り時間を設けているため注意すること。23頁参照。

５．募集人員・出願資格

<table>
<tr><th rowspan="2">課程</th><th rowspan="2">専　攻</th><th rowspan="2">募集人員</th><th colspan="3">出　願　資　格</th></tr>
<tr><th>一 般 入 試</th><th>社会人入試</th><th>内部推薦入試</th></tr>
<tr><td rowspan="6">博士課程前期
※注1</td><td>国文学</td><td>５名</td><td rowspan="6">14 頁の表 7 の博士課程前期の出願資格の（1）から（10）に該当する者。</td><td rowspan="6">14 頁の表 7 の博士課程前期の出願資格の（1）から（10）に該当する者で、且つ入学時に大学卒業後 3 年以上を経過している者。
尚、現在職に就いているか否かは問わない。</td><td rowspan="6">成城大学文芸学部を卒業、または卒業見込みの者。

詳しくは『文学研究科内部推薦入試事前審査要領』を参照。※注2</td></tr>
<tr><td>英文学</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>日本常民文化</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>美学・美術史</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション学</td><td>５名</td></tr>
<tr><td>ヨーロッパ文化</td><td>５名</td></tr>
<tr><td rowspan="6">博士課程後期
※注1</td><td>国文学</td><td>３名</td><td rowspan="6">15 頁の表 8 の博士課程後期の出願資格の（1）から（8）に該当する者。</td><td rowspan="6"></td><td rowspan="6"></td></tr>
<tr><td>英文学</td><td>３名</td></tr>
<tr><td>日本常民文化</td><td>３名</td></tr>
<tr><td>美学・美術史</td><td>３名</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション学</td><td>３名</td></tr>
<tr><td>ヨーロッパ文化</td><td>３名</td></tr>
</table>

※注１　外国人枠は設けないが、それぞれの範疇に外国人受験者が含まれる。
※注２　『文学研究科内部推薦入試事前審査要領』は入学センターで入手できる。

６．事前審査・出願資格の確認について

6-1. 内部推薦入試出願資格審査の申請期間

（表４）

課程	審査申請期間
博士課程前期	2023 年 10 月 4 日（水）から 10 月 18 日（水）16：00 まで（必着）

・申請手続きについて

出願を予定している者は、2 号館 1 階の入学センターで、『内部推薦入試事前審査要領』を入手すること。なお、「事前審査」では入学検定料の納付は不要で、「事前審査」の後に出願をとりやめても構わない。

また、3 年生の秋から 1 年間交換留学・認定留学した学生用の事前審査受付期間は別途定めているので、入学センターまで問い合わせること。

6-2. 文学研究科が指定している者の出願期間前の出願資格の確認・審査申請期間

出願資格に応じて、出願期間前に、資格証明書の確認、学力確認、又は入学資格審査がそれぞれ必要となる。表５「出願期間前における出願資格の確認・審査申請期間」内に成城大学入学センターに申請すること。対象となる者は次の通り。

・出願資格 14 頁の表７の（3）から（10）で出願を検討している者
・出願資格 15 頁の表８の（3）から（8）で出願を検討している者
・出願資格 14・15 頁の表７・８の（1）から（2）のうち、16 頁の通り文学研究科が指定した者

（表５）2024 年度入学に係る出願期間前における出願資格の確認・審査申請期間

確認・審査申請期間
2023 年 12 月 4 日（月）から 12 月 18 日（月）16：00 まで（必着）

提出書類

出願資格の確認・審査申請時に必要な書類は、表６の通り。所定の様式は、「成城大学入試情報サイト　成城ブリッジ（https://admission.seijo.ac.jp/）」に掲載しているので、ファイルをダウンロードして印刷し、必要事項を記入の上、メールに添付して提出すること。

書類送付先：成城大学入学センター　　admission@seijo.jp

（表６）2024 年度入学に係る出願期間前における出願資格の確認・審査申請必要書類

提出が必要である書類	備考
（ア）出願期間前における出願資格の確認・審査申請書	本学所定の様式
（イ）履歴書	本学所定の様式
（ウ）自身が該当する表７又は表８中の番号（出願資格）の資格証明書欄に記載されている資格証明書のコピー　※１	出願資格の確認・審査申請時において、証明書類の原本を提出する必要はありません。なお、原本は、本出願時にご提出いただきます。
（エ）最終卒業（修了）校の成績証明書のコピー　※１	出願資格の確認・審査申請時において、証明書類の原本を提出する必要はありません。なお、原本は、本出願時にご提出いただきます。
（オ）志願理由書	1000 字程度の日本語。書式随意
（カ）日本語能力試験（N1 レベル）の合格証明書（写） ※国文学、コミュニケーション学専攻のみ ※日本語を第一言語としない者のみ	出願日から遡って２年以内のもの

※１ 原本（出身学校が発行し、証明した文書）のコピーを提出してください。原文が日本語または英語以外の言語の場合は、原文と併せて日本語または英語による訳文を付けてください。
訳文については、大使館などの公的機関で認証を受けてから提出してください。
卒業（修了）または卒業見込み（修了見込み）証明書を発行できない場合は、学位証明書の原本（出身学校が発行し、証明した文書）のコピーを提出してください。

※２ 出願資格及びその資格証明書等について疑問がある場合は、出願期間前における出願資格の確認・審査申請期間以前の、できるだけ早い時期に入学センターまで問合せること。

７．出願資格の詳細（Ⅰ・Ⅱ期共通）

出願資格及び出願期間前における出願資格の確認・審査申請について

成城大学大学院文学研究科に出願することができるのは、博士課程前期については表７に掲げるいずれかの出願資格に該当する者、博士課程後期については表８に掲げるいずれかの出願資格に該当する者です。また、各出願資格を証明するために必要となる資格証明書も、表７及び表８に示すとおりです。詳細をよく確認してください。なお、資格証明書は、各機関が発行する書類です。

【１】博士課程前期の出願資格

（表７）2024 年度入学に係る博士課程前期の出願資格並びに対応する資格証明書及び出願期間前の審査等の有無

出　願　資　格	資格証明書	出願期間前の審査等の有無
（１）日本の大学（注1）を卒業した者、又は 2024 年３月 31 日までに卒業見込みの者	卒業又は卒業見込証明書	無 ※その他の注意等③参照
（２）大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者、又は 2024 年３月 31 日までに授与される見込みの者	学位授与又は学位授与見込証明書	無 ※その他の注意等③参照
（３）外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者、又は 2024 年３月 31 日までに修了見込みの者	当該課程の修了又は修了見込証明書 ＊国や学校により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 証明書類の確認
（４）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者、又は 2024 年３月 31 日までに修了見込みの者	当該課程の修了又は修了見込証明書 ＊国や学校により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 証明書類の確認
（５）我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するもの（以下「文部科学大臣指定外国大学日本校」という。）の当該課程を修了した者、又は 2024 年３月 31 日までに修了見込みの者	文部科学大臣指定外国大学日本校の課程の修了又は修了見込証明書	有 証明書類の確認
（６）外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が指定するものに限る。）において、修業年限が３年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び文部科学大臣指定外国大学日本校において課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者、又は 2024 年３月 31 日までに授与される見込みの者	文部科学大臣が指定する外国の大学等で修業年限が３年以上の課程を修了したことによる学士の学位に相当する学位授与又は学位授与見込証明書	有 証明書類の確認
（７）専修学校の専門課程（修業年限が４年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が指定するもの（以下「文部科学大臣指定専修学校専門課程」という。）を文部科学大臣が定める日以後に修了した者、又は 2024 年３月 31 日までに修了見込みの者	課程修了又は課程修了見込証明書	有 証明書類の確認
（８）学校教育法施行規則第 155 条第１項第６号に規定する文部科学大臣の指定した者（注2）、又は 2024 年３月 31 日までにこの資格を満たす見込みの者	卒業又は卒業見込証明書	有 証明書類の確認
（９）学校教育法第102条第2項の規定により大学院に入学した者であって、本学大学院において、大学院における教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者	他大学院に飛び入学した証明書 飛び入学した大学院の成績証明書 ＊個人の状況により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 学力の確認
（10）本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時において 22 歳に達した者	最終学歴の卒業証明書 最終学歴の成績証明書 研究成果等（論文、評論等） ＊個人の状況により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 入学資格の審査

（注１）上記（１）の「日本の大学」とは、学校教育法第 83 条に規定する大学を指す。
（注２）上記（８）の「学校教育法施行規則第 155 条第１項第６号に規定する文部科学大臣の指定した者」とは、昭和 28 年文部省告示第５号により指定される大学院の入学に関し大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者である。なお、この資格又は 2024 年３月 31 日までにこの資格を満たす見込みの者には、以下に示す者が含まれる。
・防衛大学校、防衛医科大学校、水産大学校又は海上保安大学校を卒業した者、又は 2024 年３月 31 日までに卒業見込みの者
・職業能力開発総合大学校の長期課程を修了した者、又は 2024 年３月 31 日までに修了見込みの者
・気象大学校の大学部を卒業した者、又は 2024 年３月 31 日までに卒業見込みの者

※その他の注意等　①上記（３）の「外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者、又は 2024 年３月 31 日までに修了見込みの者」とは、「日本国外の正規の学校教育における 16 年目の課程を修了した者、又は見込みの者」という意味です。16 年間教育を受けたかではなく、「16 年目の課程を修了しているかどうか、修了する見込みかどうか」で判断します。
②上記（１）から（10）までのいずれの出願資格にも該当しない場合は、博士課程前期の出願資格に該当しません。たとえば、中国における３年制の高等教育機関（専科大学・職業学院等）のみ卒業して学士の学位を授与されていない場合は、出願資格に該当しません。
③出願資格（1）（2）の志願者のうち、文学研究科では出願資格の確認を必要とする者がいます。16 頁を合わせて必ず確認してください。

【2】博士課程後期の出願資格

（表８）2024 年度入学に係る博士課程後期の出願資格並びに対応する資格証明書及び出願期間前の審査等の有無

出　願　資　格	資格証明書	出願期間前の審査等の有無
（1）日本の大学（注1）において授与された修士の学位を有する者、又は 2024 年 3 月 31 日までに当該学位を授与される見込みの者	修了又は修了見込証明書	無 ※その他の注意等①参照
（2）日本の大学（注1）において専門職大学院課程修了者に対して授与された学位（注2）（以下「専門職学位」という。）を有する者、又は 2024 年 3 月 31 日までに当該学位を授与される見込みの者	学位授与又は学位授与見込証明書	無 ※その他の注意等①参照
（3）外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は 2024 年 3 月 31 日までに当該学位を授与される見込みの者	学位授与又は学位授与見込証明書 ＊国や学校により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 証明書類の確認
（4）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は 2024 年 3 月 31 日までに当該学位を授与される見込みの者	学位授与又は学位授与見込証明書 ＊国や学校により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 証明書類の確認
（5）我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が指定するもの（以下「文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校」という。）の当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、又は 2024 年 3 月 31 日までに当該学位を授与される見込みの者	文部科学大臣指定外国大学（大学院相当）日本校の学位授与又は学位授与見込証明書	有 証明書類の確認
（6）国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、又は 2024 年 3 月 31 日までに当該学位を授与される見込みの者	学位授与又は学位授与見込証明書 ＊個人の状況により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 証明書類の確認
（7）学校教育法施行規則第 156 条第 6 号に規定する文部科学大臣の指定した者（注3）	日本の大学における卒業証明書又は外国において学校教育における 16 年の課程の修了証明書 大学、研究所等において 2 年以上研究に従事したことの証明書類 研究成果等（論文、評論等） ＊個人の状況により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 学力の確認
（8）本学大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時において 24 歳に達した者	最終学歴の卒業証明書 最終学歴の成績証明書 研究成果等（論文、評論等） ＊個人の状況により、その他の証明書類の提出を求めることがある。	有 入学資格の審査

（注１）上記（１）及び（２）並びに下記（注３）の「日本の大学」とは、学校教育法第 83 条に規定する大学を指す。
（注２）上記（２）の「専門職大学院課程修了者に対して授与された学位」とは、学校教育法第 104 条第 3 項に規定する専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された、学位規則第 5 条の 2 に規定する学位を指す。
（注３）上記（７）の「学校教育法施行規則第 156 条第 6 号に規定する文部科学大臣の指定した者」とは、平成元年文部省告示第 118 号により指定される大学院の入学に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者であり、以下に示す者である。
・日本の大学（注1）を卒業し、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
・外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学、研究所等において、2 年以上研究に従事した者で、本学大学院において、当該研究の成果等により修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

※その他の注意等　①出願資格（1）（2）の志願者のうち、文学研究科では出願資格の確認を必要とする者がいます。16 頁を合わせて必ず確認してください。

＜最も得意な言語（いわゆる母語）＞が日本語以外の言語である受験者は下記の指示に従うこと

１．出願資格の確認

出願期間前に証明書類・学力の確認又は出願資格の審査を行うので、9 頁、13 頁を参照の上、出願開始前に入学センターに申請をしてください。この申請（確認）を行わずに出願することはできません。対象となる者は次の通りです。

・14 頁の表 7、15 頁の表 8 の（1）から（2）に該当し、最も得意な言語が日本語以外である者
・14 頁の表 7 の（3）から（10）までに該当する者
・15 頁の表 8 の（3）から（8）までに該当する者

２．受験科目および試験の解答方法

・指定がない限り、原則としてすべて日本語で解答してください。
・一般語学科目では、母語を試験科目として選択することはできません。
・出願資格の確認が完了した場合、一般語学科目の選択は次の通りとします。

<table>
<tr><th>専攻</th><th colspan="5">一　般　語　学</th></tr>
<tr><td>国文学</td><td>博士課程前期</td><td colspan="4">免除</td></tr>
<tr><td>英文学</td><td>博士課程後期</td><td colspan="2">〈最も得意な言語〉が英語の場合
⇩
独語・仏語・中国語のうち
１科目選択</td><td colspan="2">〈最も得意な言語〉が
英語以外の場合
⇩
免除</td></tr>
<tr><td>日本常民文化</td><td>博士課程前期・後期</td><td colspan="4">免除</td></tr>
<tr><td>美学・美術史</td><td>博士課程前期・後期</td><td colspan="4">英語・独語・仏語・伊語・ラテン語・中国語のうちから
〈最も得意な言語〉でない言語を1科目選択</td></tr>
<tr><td>コミュニケーション学</td><td>博士課程前期・後期</td><td colspan="4">免除</td></tr>
<tr><td rowspan="3">ヨーロッパ文化</td><td rowspan="3">博士課程前期・後期</td><td colspan="2">〈最も得意な言語〉が
独語の場合</td><td colspan="2">〈最も得意な言語〉が
仏語の場合</td><td>〈最も得意な言語〉が
独語・仏語以外の場合</td></tr>
<tr><td>専門科目で独文解釈を選択</td><td>専門科目で仏文解釈を選択</td><td>専門科目で仏文解釈を選択</td><td>専門科目で独文解釈を選択</td><td rowspan="2">免除</td></tr>
<tr><td>英語・仏語・ギリシア語・ラテン語のうち１科目選択</td><td>免除</td><td>英語・独語・ギリシア語・ラテン語のうち１科目選択</td><td>免除</td></tr>
</table>

３．在留資格についての注意

【日本国籍を有しない海外在住のみなさんへ】

※日本国籍を有しない方が本学に入学するには、出入国管理及び難民認定法において、大学院入学に支障のない在留資格を現に有するか、入学時までに取得できることが必要です。
※入学時までに上記在留資格を取得できない場合は入学許可を取り消します。
※「短期滞在ビザ」で受験し合格した場合、本学の発行する「入学許可書」（入学手続完了後申請を受けて一週間程度で発行）を使用し、自国に戻って「留学」ビザを取得する必要があり、ビザの取得には1ヶ月～３ヶ月ほどの時間がかかります。
※以上から、「短期滞在ビザ」でのⅡ期募集入試への出願は避けることを強くお勧めします。

8．選抜方法・学力試験時間割（筆記試験・口述試問）（Ⅰ・Ⅱ期共通）

課程	専攻	入試区分	選抜方法　※学力試験（筆記試験・口述試問）、研究計画書及び論文、出身学校の成績等により総合的に判断する。				
			学力試験				口述試問
			一般語学		専門科目		
			科目	時間割	科目	時間割	
博士課程前期	国文学	一般入試	英語、独語、仏語、中国語、漢文のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	国文学・漢文学・国語学	11：00～12：30（90分）	14：00～（予定）
		社会人入試	免除				
		内部推薦入試	免除				
	英文学	一般入試			英語学系、英語文学・文化系のうち１科目選択	11：00～12：30（90分）	
		社会人入試					
		内部推薦入試	免除				
	日本常民文化	一般入試	英語、独語、仏語、中国語、漢文のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	日本史学、民俗学、文化人類学のうち２科目選択	11：00～12：30（90分）	
		社会人入試	免除				
		内部推薦入試	免除				
	美学・美術史	一般入試	英語、独語、仏語、伊語、ラテン語、中国語のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	美学、芸術学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史のうち１科目選択	11：00～12：30（90分）	
		社会人入試	免除				
		内部推薦入試	免除				
	コミュニケーション学	一般入試	英語、独語、仏語、中国語のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	社会心理学・コミュニケーション学	11：00～12：30（90分）	
		社会人入試	免除				
		内部推薦入試	免除				
	ヨーロッパ文化	一般入試	英語、独語、仏語、ギリシア語、ラテン語のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	独文解釈、仏文解釈のうち１科目選択・小論文（日本語）	11：00～13：00（120分）	
		社会人入試	免除				
		内部推薦入試	免除				
博士課程後期	国文学	一般入試			上代文学、中古文学、中世文学、近世文学、近代文学、漢文学、国語学のうち自分の専攻科目のみ	11：00～12：30（90分）	
	英文学	一般入試	独語、仏語、中国語のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	英語学系、英語文学・文化系のうち１科目選択	11：00～12：30（90分）	
	日本常民文化	一般入試	英語、独語、仏語、中国語、漢文のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	日本史学、民俗学、文化人類学のうち１科目選択	11：00～12：30（90分）	
	美学・美術史	一般入試	英語、独語、仏語、伊語、ラテン語、中国語のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	美学、芸術学、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史のうち１科目選択	11：00～12：30（90分）	
	コミュニケーション学	一般入試	英語、独語、仏語、中国語のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	社会心理学・コミュニケーション学	11：00～12：30（90分）	
	ヨーロッパ文化	一般入試	英語、独語、仏語、ギリシア語、ラテン語のうち１科目選択	9：30～10：30（60分）	独文解釈、仏文解釈のうち１科目選択・小論文（日本語）	11：00～13：00（120分）	

学力試験の注意事項

≪全専攻共通≫

・一般語学科目の試験において、選択した科目の辞書（「漢文」における漢和辞典含む）を 1 冊のみ持ち込み、使用することができる（電子辞書は不可）。

・一般語学科目、専門科目の試験において、書き込みや付せんが貼りつけてある辞書の使用は認めない。

≪英文学専攻≫

・社会人入試博士課程前期を受験する者で TOEFL iBT 90 点以上あるいは IELTS 6.5 以上の者は、専門科目の筆記試験を免除する。

・TOEFL iBT および IELTS の成績は、出願期間の締切日を基準に 2 年間有効とする。

・TOEFL iBT の成績表（Institutional Test Score Record）あるいは IELTS の成績証明書（Test Report Form）のコピーを出願書類とともに提出すること。（IELTS は、アカデミック・モジュールのみ利用可能）

≪日本常民文化専攻≫

・博士課程前期および博士課程後期を受験する者は、入学後研究しようとする専門領域を第 1 選択とし、博士課程前期は第 1、第 2 選択の別を入学願書の受験科目記入欄に明記すること。

≪ヨーロッパ文化専攻≫

・一般語学科目の選択を、専門科目と異なるものとすること。

・専門科目の試験において、独和辞典または仏和辞典を 1 冊のみ持ち込み、使用することができる（電子辞書は不可）。

９．出願書類（Ⅰ・Ⅱ期共通）

・○は提出必須、△は任意若しくは該当する場合に提出。
・指定のないものはすべて１部提出。
・必ず次頁の注記を参照すること。

課　　程	博士課程前期			博士課程後期
入　試　区　分	一般入試	社会人入試	内部推薦入試	一般入試
入学願書（巻末に添付）	○	○	○	○
成績証明書（学部）（※１）	○	○	○	—
成績証明書（博士課程前期（修士課程））（※１）	—	—	—	○
卒業または卒業見込証明書（※１）	○	○	○	—
修了または修了見込証明書（※１）	—	—	—	○
［以下いずれかの論文等］ ・卒業論文（写し）（※２） ・研究報告書（4000 ～ 8000 字）（※３）	○	—	○（※４）	—
［以下いずれかの論文等］ ・修士論文（写し）（※５） ・修士論文に代わる論文（12000 字程度）（※６）	—	—	—	○
研究計画書（日本語 1000字程度。書式随意）（※７）	○	○	○（※８）	○
研究成果をまとめた論文や報告書（写し）	△	—	—	△
大学卒業後の研究成果（12000 字程度の論文）（※９）	—	○	—	—
（英文学専攻志願者のみ） TOEFL iBT あるいは IELTS の成績のコピー（IELTS は、アカデミック・モジュールのみ利用可能）	—	△（※ 10）	○	—
在留カードの両面の写し（日本在住で外国国籍を有する者のみ）	△	△	△	△
パスポート（写し）（日本国外に居住している者のみ）	△	△	△	△
戸籍抄本（※11）	△	△	△	△
長期履修学生申請書他（※12）	△	△	△	△

（※１）証明書の原本（出身学校が発行し、証明した文書）を提出してください。原文が日本語または英語以外の言語の場合は、原文と併せて日本語または英語による訳文を付けてください。訳文については、大使館などの公的機関で認証を受けてから提出してください。外国の大学（大学院）出身者で卒業または卒業見込証明書あるいは、修了または修了見込証明書が発行できない場合は、学位証明書の原本（出身学校が発行し、証明した文書）を提出してください。

（※２）卒業論文の内容と言語が本入学試験の選抜に直接関わらないと判断した志願者は※３の「卒業論文がない者」に準じてよい。提出は、「書類の提出方法」に従うこと。

（※３）卒業論文がない者。これまでの研究経過について書くこと。英文学専攻、コミュニケーション学専攻、ヨーロッパ文化専攻志願者の研究報告書は日本語 1000 字程度。書式随意。提出は、「書類の提出方法」に従うこと。

（※４）日本常民文化専攻内部推薦志願者は提出不要。

（※５）修士論文の内容と言語が本入学試験の選抜に直接関わらないと判断した志願者は※６の「修士論文がない者」に準じてよい。提出は、「書類の提出方法」に従うこと。

（※６）修士論文がない者。既発表・未発表および書式は問わない。英文学専攻志願者は英語論文でもよい（3500 words 程度）。提出は、「書類の提出方法」に従うこと。

（※７）提出は、「書類の提出方法」に従うこと。

（※８）日本常民文化専攻内部推薦志願者は 3000 字程度。

（※９）既発表・未発表および書式は問わない。英文学専攻志願者は、論文が、①英語で書かれている場合は日本語で 2000 字程度、②日本語で書かれている場合は英文で 900 語程度の要旨をつけること。提出は、「書類の提出方法」に従うこと。

（※10）専門科目の免除を希望する者のみ。

（※11）婚姻等により成績・卒業（修了）証明書等と現姓が異なる者のみ。

（※12）長期履修学生制度の利用を希望する場合は、26 頁からの「長期履修学生制度」を熟読のうえ、必要書類を出願と同時に提出。

書類の提出方法

①表紙をつけること。表紙には提出書類のタイトル、氏名を記載すること。

②２ページ目以降を本文とすること。２ページ以降に通しページ番号を振ること。

③本文は片面印刷にすること。カラー・白黒かは問わない。Ａ４サイズでの作成・提出を原則とする。

④表紙を含めて左肩にホチキスで留めること。

⑤冊子等で綴じられている場合は、そのまま提出して構わない。
　※ただし、その書類が何かが分かるように付箋等を貼り付けること。

10. 出願手続（Ⅰ・Ⅱ期共通）

志願者は、入学検定料の支払いとともに、20 頁「9. 出願書類（Ⅰ期・Ⅱ期共通）」に該当する書類を入学センターへ提出すること（**※詳細 6 頁・10 頁「試験日程」参照**）。
提出書類は締切日時必着とする。また、提出された書類は返却しない。
提出書類のうち入学願書等は、入試情報サイト「成城ブリッジ」で公開している「学生募集要項」をダウンロードし、印刷・出力したものを使用してもかまわない。

障がいや疾病等により、本学の受験・修学に際して配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、事前に本学入学センターに相談すること。
※日常生活において、補聴器・車椅子等を使用している方で、試験当日も同様に使用する場合は、試験場設定等の関係から、必ず申請してください。

出願書類送付先

〒157-8511
東京都世田谷区成城 6 - 1 -20
成城大学大学院　入学センター
封筒に「文学研究科出願書類在中」と明記のこと

11. 入学検定料（Ⅰ・Ⅱ期共通）

35,000 円（銀行振込に限る）
銀行備えつけの振込用紙、自動振込機（ATM）、ネットバンキングから、入学検定料をお支払ください。
振込手数料は、出願者がご負担ください。

［振込先］
三井住友銀行　成城支店
普通預金　１４５１３４９
学校法人（ガッコウホウジン）　成城学園（セイジョウガクエン）

※お振込の際、出願者氏名の前に整理番号「２８」を入力（記入）してください。
（例）２８　セイジョウ　タロウ
※振込期間は出願期間中とする。出願締切日は 15：00 まで。
※原則として、一旦支払われた入学検定料は返還しない。
ただし、返還が認められる場合があるので、詳細は入試情報サイト「成城ブリッジ」の大学院ページ内にある「入学検定料の返還」を参照すること。

12. 受験票の交付（Ⅰ・Ⅱ期共通）

入学検定料・出願書類の確認が取れた後、郵送にて受験票を交付する。
受験票が届き次第、内容に誤りがないか必ず確認すること。
試験日の 1 週間前までに受験票が届かない場合は、入学センターへ連絡すること。

13. 学費（Ⅰ・Ⅱ期共通）

2023年度入学者入学年次納付金は以下の通りであるが、2024年度については、金額・納付方法等について一部変更する場合がある。

2023年度入学者入学年次納付金一覧（参考）

	科　目	学　外　者	学　内　者	備　　考
博士課程前期	入学金	150,000円	免　　除	入学年次のみ徴収
	授業料	570,000円	570,000円	分割 1期のみ　150,000円 2～4期　各140,000円
	施設費	65,000円	65,000円	毎年徴収
	合計	785,000円	635,000円	
博士課程後期	入学金	150,000円	免　　除	入学年次のみ徴収
	授業料	507,000円	507,000円	分割 1期のみ　132,000円 2～4期　各125,000円
	施設費	65,000円	65,000円	2年次まで徴収
	合計	722,000円	572,000円	

（注）1. 授業料は年4回に分割納付することができる。
分割納付の場合の初回納付金は、次の通り。
博士課程前期学外者　365,000円　博士課程前期学内者　215,000円
博士課程後期学外者　347,000円　博士課程後期学内者　197,000円

2. 入学金は入学年次のみ徴収。本学卒業者（学内者）は原則入学金※を免除する。
※入学金免除については、直近の学歴が本学を卒業または修了したことを要件とする。

3. 外国人留学生で授業料等減免制度の利用を希望する者は、合格発表日以降に、大学9号館1階国際センターで当該制度についての説明を受けた後、所定の手続（納付金の振込と入学手続書類の提出）を行うこと。ただし、制度を利用するためには要件を満たす必要がある。手続申込には、入学手続書類一式が必要となる。

4. 入学手続完了後、2024年3月31日(日)16：00までに所定の入学辞退手続を完了した者には、入学金を除く納付金を返還する。

14. 合格者発表および入学手続（Ⅰ・Ⅱ期共通）

合格者の発表は、本学オフィシャルサイト（https://www.seijo.ac.jp）に掲載する。電話等による合否に関する問い合わせには一切応じない。

合格者には、発表当日に入学センターより入学手続書類を交付する。なお、当日来学できなかった場合は発表翌日に郵送する。

入学手続は、入学手続期間中に「納付金の納入」「入学手続書類の提出」を行うこと。締切日は締め切り時間を設けているため注意すること。

なお、本学で交付する書類以外に下記の書類が必要となる。

ア．博士課程前期入学者は卒業証明書、博士課程後期入学者は学位取得単位証明書（修了証明書）を2024年3月27日（水）16：00までに提出。

イ．学生証氏名記載にかかわる公的書類（学生証の氏名は漢字またはカナ表記）。
住民票または住民票記載事項証明書1通（どちらも本籍の記載は不要）。
漢字圏の外国人は、漢字氏名が記載されている在留カードの写しを、その他の外国人については、カナ氏名が記載されている住民票を提出すること。

15. 各種制度のご案内

1. 募集要項・過去問題の請求

大学院学生募集要項および出願書類、入試問題集（過去３年度分）は、無料にて入手できる。

※入試問題集は、実際に使用した科目のみの掲載となるため、実施していない試験科目は掲載されていない。

入学試験に関する一切の問い合わせは本学入学センターへすること。

電話：03-3482-9100

Mail：admission@seijo.jp

平　日：9：00 － 16：00

土曜日：9：00 － 12：00（ただし、８月中旬から９月中旬まで及び年末年始を除く。）

（日曜日、祝日、その他大学の休業日（夏期一斉休業期間、年末年始等）を除く。）

2. 成城大学大学院澤柳奨学金制度

本学大学院の博士課程に在籍する者は、修学状況に基づき、選考により本奨学金の給付を受けることができる。

奨学金の給付額

給付対象者	給付額
博士課程前期在籍者 （長期履修学生を除く）	140,000 円
博士課程後期在籍者 （長期履修学生を除く）	125,000 円
長期履修学生	奨学生となった年度の授業料の４分の１に相当する額とし、千円未満の端数は、これを切捨てる。

給付期間：奨学生は、選考された当該年度に限り、奨学金の給付を受けることができる。
ただし、再度奨学金の給付を受けることを妨げない。

3. 成城大学私費外国人留学生授業料等減免制度

成城大学では、私費外国人留学生の経済的負担を軽減し、勉学・研究に支障がないよう、授業料等の減免を行うことを目的として、私費外国人留学生授業料等減免制度を設けています。

1. 対象者

経済的理由により授業料等の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者。

ただし、次のいずれかに該当する者は除く。

(1) 本学における他の授業料等の軽減措置を受けている者及び受ける予定のある者。

(2) 理由なく授業料等を滞納している者。

2. 申請手続

減免を希望する対象者は、合格通知に同封する案内で申請手続を確認すること。

3. 選考基準

選考基準は、次のいずれにも該当することとする。

(1) 仕送りを受けている場合、その仕送り額から授業料等納入すべき費用の支払いに充てた分を差し引いた額が平均月額 90,000 円以下であること。

(2) 対象者の扶養者で、日本に在住する者がいる場合、その者の年収が 500 万円未満であること。

4. 博士課程後期単位修得退学者対象（授業料等減免制度）

博士課程後期を単位修得退学した後、博士論文の提出のために再入学をする者を対象として、授業料等減免制度を設けている。

種目		年額
入学金		免除
授業料		50,000 円に減免
施設費	（1，2年次）	―

【適用対象者】

本学大学院研究科博士課程後期に、学則第 21 条に規定する所定の期間在学し、所要の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて退学（単位修得退学）後、3 年以上経た者で、研究指導を受けて博士論文の執筆及び論文審査の申請を目的として再入学を希望する者。

5. 長期履修学生制度

成城大学大学院文学研究科には、長期履修学生制度があります。

A　制度の概要　長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により、一般の標準修業年限（博士課程前期 2 年、博士課程後期 3 年）より長い一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。長期履修期間は、在学年限の範囲内で、1 年を単位として定めることができます。なお、第 1 学年からの適用を希望する場合には、入学試験を受けるための出願時に、あわせて所定の書類を提出して、制度の適用を申請してください。

B　申請について

1）　対象の課程　博士課程前期・後期

2）　申請資格　①職業を有する者
②家庭で親族等の介護にあたっている者
③出産予定のある者
④育児に携わっている者
⑤経済的理由により時間の余裕を必要とする者
⑥その他、文学研究科教授会において適当と認めた者
詳細は教務部（電話：03-3482-9045）にお問い合わせください。

3）　履修期間　在学年限の範囲内（博士課程前期 4 年、博士課程後期 6 年）で、1 年を単位として長期履修期間を定めることができます。
・休学期間は、上記期間に含まれません。
・**長期履修学生制度の適用の有無にかかわらず、在学年限内に修了することができない場合には除籍の対象となります**のでご注意ください。

4）　授業料　**一般の標準修業年限分の授業料に相当する額を、長期履修期間に応じて分割納付することになります。**具体的な納入額、納入時期等については、長期履修の許可時に通知します。

長期履修による授業料年額＝通常の授業料年額×一般の標準修業年限÷長期履修許可年限

【例】博士課程前期で 3 年間とする長期履修学生制度の許可を得た場合

区　　分	各年度の授業料納付額			修了までの授業料総額
一般学生 （標準修業年限 2 年）	1 年目 570,000 円	2 年目 570,000 円		1,140,000 円
長期履修学生 （3 年の標準修業年限期間の適用）	1 年目 380,000 円	2 年目 380,000 円	3 年目 380,000 円	1,140,000 円

※上記は 2023 年度の授業料年額（施設費を除く）による例です。
※在学 1 年後（博士課程後期は 2 年も含む）に長期履修学生制度の適用を受ける場合は、入学時に長期履修許可を得た場合よりも授業料総額は高くなりますのでご注意ください。

5）　**申請時期**　　出願時

6）　**申請方法**　　出願書類の他に下記の書類を提出してください。
・長期履修学生制度適用申請書（様式 1）
・長期履修計画書（様式 3）
・在職証明書または在職が確認できる書類等（該当する場合のみ）
・その他研究科が必要と認める書類
※提出された申請書類は返却いたしません。
様式 1 と様式 3 については、下記の本学インターネット・サイトよりダウンロードしてください。
https://www.seijo.ac.jp/students/univ-system/longterm-student/

7）　**結果通知**　　適用の可否は、合格者発表後、教務部より別途通知します。

C　その他　　**希望する標準修業年限に対応して年間履修登録上限単位数が設定されています**ので、申請の際に確認してください。
なお、長期履修学生制度の適用を受けた後に、事情により適用される標準修業年限の期間の変更を希望する場合は、1 回に限り変更（延長または短縮）することができます。
また、長期履修学生制度に関するお問い合わせは教務部（電話：03-3482-9045）にて受け付けます。

16. 教員推薦入試

1．目的

成城大学大学院文学研究科での全専攻では、質の高い学生を確保して大学院の活性化を図ることを目的として、成城大学大学院文学研究科への進学を希望する学校教員（小学校、中学校、高等学校の教員）のための推薦入学制度を導入し、以下の書類を提出できる者を博士課程前期に大学院生として受け入れる。

2．募集人員

国文学専攻	博士課程前期	若干名
英文学専攻	博士課程前期	若干名
日本常民文化専攻	博士課程前期	若干名
美学・美術史専攻	博士課程前期	若干名
コミュニケーション学専攻	博士課程前期	若干名
ヨーロッパ文化専攻	博士課程前期	若干名

3．選抜方法

勤務校校長の推薦を必要とし、筆記試験は行わず、面接をもってこれに代える。

4．出願書類

イ）入学願書（本学所定の用紙※本学ホームページからダウンロードしたものも可）
ロ）勤務校校長の推薦状
ハ）履歴書
ニ）業績表
ホ）研究計画書（できるだけ具体的なもの。研究分野は志願者がこれまで教員として担当した科目と密接な関連性をもち、本研究科の指導態勢の枠内で論文執筆が可能であることが望ましい。）

5．受験票の交付

入学検定料・出願書類の確認が取れた後、郵送にて受験票を交付する。
試験日の１週間前までに受験票が届かない場合は、入学センターへ連絡すること。

6．判定

入学の可否について文学研究科構成員による判定会議の議を経て決定する。

7．早期修了

この制度により入学した教員は、別途定める「成城大学科目等履修生制度」および「成城大学大学院文学研究科博士課程前期における教員早期修了制度」を利用し在籍期間を１年に短縮することができる。

8．授業料等

授業料等の学費は、前期課程の学費と同様とする。
成城学園の学校教員（初等学校、中学校高等学校の教員）については学内者とする。

9．書類提出期間

2023 年 10 月 4 日（水）～ 10 月 13 日（金）※郵送出願のみ。締切日必着のこと。
上記の期間に、検定料を支払いのうえ、書留便で入学センターに郵送すること。

※入学センター受付時間　　平　日　9：00 ～ 16：00
土曜日　9：00 ～ 12：00
（日曜日・祝日・大学の休業日を除く）

検定料 35,000 円（銀行振込に限る）
銀行備えつけの振込用紙、自動振込機（ATM）、ネットバンキングから、入学検定料をお支払いください。
振込手数料は、出願者がご負担ください。

［振込先］

三井住友銀行　成城支店
普通預金　１４５１３４９
学校法人（ガッコウホウジン）　成城学園（セイジョウガクエン）

※お振込の際、出願者氏名の前に整理番号「２８」を入力（記入）してください。
（例）２８　セイジョウ　タロウ
※振込期間　2023 年 10 月 4 日（水）～ 10 月 13 日（金）15：00 まで
※原則として、一旦支払れた入学検定料は返還しない。
ただし、返還が認められる場合があるので、詳細は入試情報サイト「成城ブリッジ」の大学院ページ内にある「入学検定料の返還」を参照すること。

10. 面接試問日程・場所

2023 年 10 月 19 日（木）15：00 より（予定）
＜試験場＞成城大学学内
＊当日の集合時間・場所については、試験当日までに別途通知する。
試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後 20 分以内の遅刻に限り、受験を認める。

11. 合格者発表

2023 年 10 月 23 日（月）10：00
合格者の発表は、本学オフィシャルサイト（https://www.seijo.ac.jp）に掲載する。電話等による合否に関する問い合わせには一切応じない。
合格者には、発表当日に入学センターより入学手続書類を交付する。なお、当日来学できなかった場合は発表翌日に郵送する。

12. 手続期間

2023 年 10 月 24 日（火）～ 10 月 31 日（火）16：00 まで（締切日必着）
※手続書類は郵送のみ。締切日必着のこと。
書留便で入学センターに郵送すること。

授業科目および研究指導担当者

授業科目と研究指導担当者をご案内します。この誌面の情報は 2023 年度開講のものです。
各科目の詳細は本学ホームページ上のシラバスで公開しているので出願の際に合わせて参照してください。
※印の教員は当該授業科目の研究指導を担当します。

国文学専攻

⊙博士課程前期

上代文学研究Ａ 上代文学研究Ｂ	教授	博士(文学)	小林真由美*
中古文学研究Ａ 中古文学研究Ｂ	教授	博士(文学)	上野　英二*
中世文学研究Ａ 中世文学研究Ｂ	教授	博士(文学)	大谷　節子*
近世文学研究Ａ 近世文学研究Ｂ	教授		宮﨑　修多*
近代文学研究ⅠＡ 近代文学研究ⅠＢ	教授		池田　一彦*
近代文学研究ⅡＡ 近代文学研究ⅡＢ		休　講	
漢文学研究Ａ 漢文学研究Ｂ	准教授	博士(文学)	山田　尚子*
国語学研究Ａ 国語学研究Ｂ	准教授	博士(文学)	竹内　史郎*
国語国文学研究ⅠＡ 国語国文学研究ⅠＢ		休　講	
国語国文学研究ⅡＡ 国語国文学研究ⅡＢ		休　講	
国語国文学研究ⅢＡ 国語国文学研究ⅢＢ		休　講	
国語国文学研究ⅣＡ 国語国文学研究ⅣＢ		休　講	
比較文学研究Ａ 比較文学研究Ｂ	講師	博士(学術)	牧野　陽子　(成城大学)
文学館演習	教授		池田　一彦

⦿博士課程後期

上代文学特殊研究Ａ 上代文学特殊研究Ｂ	教授	博士(文学)	小林真由美*
中古文学特殊研究Ａ 中古文学特殊研究Ｂ	教授	博士(文学)	上野　英二*
中世文学特殊研究Ａ 中世文学特殊研究Ｂ	教授	博士(文学)	大谷　節子*
近世文学特殊研究Ａ 近世文学特殊研究Ｂ	教授		宮﨑　修多*
近代文学特殊研究ⅠＡ 近代文学特殊研究ⅠＢ	教授		池田　一彦*
近代文学特殊研究ⅡＡ 近代文学特殊研究ⅡＢ		休　講	
漢文学特殊研究Ａ 漢文学特殊研究Ｂ	准教授	博士(文学)	山田　尚子*
国語学特殊研究Ａ 国語学特殊研究Ｂ	准教授	博士(文学)	竹内　史郎*
国語国文学特殊研究ⅠＡ 国語国文学特殊研究ⅠＢ		休　講	
国語国文学特殊研究ⅡＡ 国語国文学特殊研究ⅡＢ		休　講	
国語国文学特殊研究ⅢＡ 国語国文学特殊研究ⅢＢ		休　講	
国語国文学特殊研究ⅣＡ 国語国文学特殊研究ⅣＢ		休　講	
比較文学特殊研究Ａ 比較文学特殊研究Ｂ	講師	博士(学術)	牧野　陽子　(成城大学)

英 文 学 専 攻

⊙博士課程前期

英語学研究ⅠA 英語学研究ⅠB	教授	Ph. D.	井上　　徹*	
英語学研究ⅡA 英語学研究ⅡB	准教授	Ph. D.	新井　　学	
英語学研究ⅢA 英語学研究ⅢB	講師	Ph. D.	生井　健一	早稲田大学
英語文学研究ⅠA 英語文学研究ⅠB	教授	博士(芸術学)	松田美作子*	
英語文学研究ⅡA 英語文学研究ⅡB		休　　講		
英語文学研究ⅢA 英語文学研究ⅢB	教授	博士(文学)	木下　　誠*	
英語文学研究ⅣA 英語文学研究ⅣB	講師	博士(文学)	佐藤　光重	慶應義塾大学
英語文学研究ⅤA 英語文学研究ⅤB	教授	Ph. D.	松川　祐子*	
英語文化研究ⅠA 英語文化研究ⅠB	教授	博士(文学)	鶴見　良次*	
英語文化研究ⅡA 英語文化研究ⅡB		休　　講		
Academic Writing for Graduate Students in English Literature A Academic Writing for Graduate Students in English Literature B	講師	Ph. D.	W. H. アームストロング	
英語比較研究A 英語比較研究B		休　　講		

⦿博士課程後期

英語学特殊研究ⅠA 英語学特殊研究ⅠB	教授	Ph. D.	井上　徹*	
英語学特殊研究ⅡA 英語学特殊研究ⅡB	准教授	Ph. D.	新井　学	
英語学特殊研究ⅢA 英語学特殊研究ⅢB	講師	Ph. D.	生井　健一	早稲田大学
英語文学特殊研究ⅠA 英語文学特殊研究ⅠB	教授	博士(芸術学)	松田美作子*	
英語文学特殊研究ⅡA 英語文学特殊研究ⅡB		休　講		
英語文学特殊研究ⅢA 英語文学特殊研究ⅢB	教授	博士(文学)	木下　誠*	
英語文学特殊研究ⅣA 英語文学特殊研究ⅣB	講師	博士(文学)	佐藤　光重	慶應義塾大学
英語文学特殊研究ⅤA 英語文学特殊研究ⅤB	教授	Ph. D.	松川　祐子*	
英語文化研究ⅠA 英語文化研究ⅠB	教授	博士(文学)	鶴見　良次*	
英語文化特殊研究ⅡA 英語文化特殊研究ⅡB		休　講		
英語比較特殊研究A 英語比較特殊研究B		休　講		

日本常民文化専攻

⊙博士課程前期

日本常民文化研究ⅠA 日本常民文化研究ⅠB	教授		小島　孝夫*	
日本常民文化研究ⅡA 日本常民文化研究ⅡB	講師		八木橋伸浩	玉川大学
日本民俗学研究ⅠA 日本民俗学研究ⅠB	講師	博士(文学)	小池　淳一	国立歴史民俗博物館
日本民俗学研究ⅡA 日本民俗学研究ⅡB	准教授	博士(文学)	及川　祥平*	
日本民俗学研究ⅢA 日本民俗学研究ⅢB	教授	博士(学術)	俵木　　悟*	
日本常民文化史研究A 日本常民文化史研究B	講師	博士(文学)	三田　武繁	東海大学
日本文化史研究ⅠA 日本文化史研究ⅠB	教授	博士(文学)	外池　　昇*	
日本文化史研究ⅡA 日本文化史研究ⅡB	准教授	博士(文学)	鈴木　正信*	
日本文化史研究ⅢA 日本文化史研究ⅢB	准教授	博士(文学)	堀川　　徹	星槎大学
日本思想史研究A 日本思想史研究B	講師	博士(文学)	滝口　正哉	立教大学
文化人類学研究ⅠA 文化人類学研究ⅠB	教授	博士(人間環境学)	川田　牧人*	
文化人類学研究ⅡA 文化人類学研究ⅡB	講師	Ph. D.	ジェフリー・A・トルバート ペンシルベニア州立大学 ハリスバーグ校	
文化人類学研究ⅢA 文化人類学研究ⅢB	講師	博士(人間科学)	春日　直樹	
社会人類学研究A 社会人類学研究B	教授	博士(社会人類学)	上杉　富之*	
文化政策論研究		休　　講		
公共文化学研究		休　　講		

⦿博士課程後期

日本常民文化特殊研究ⅠA 日本常民文化特殊研究ⅠB	教授		小島　孝夫*	
日本常民文化特殊研究ⅡA 日本常民文化特殊研究ⅡB	講師		八木橋伸浩	玉川大学
日本民俗学特殊研究ⅠA 日本民俗学特殊研究ⅠB	講師	博士(文学)	小池　淳一	国立歴史民俗博物館
日本民俗学特殊研究ⅡA 日本民俗学特殊研究ⅡB	准教授	博士(文学)	及川　祥平*	
日本民俗学特殊研究ⅢA 日本民俗学特殊研究ⅢB	教授	博士(学術)	俵木　　悟*	
日本常民文化史特殊研究A 日本常民文化史特殊研究B	講師	博士(文学)	三田　武繁	東海大学
日本文化史特殊研究ⅠA 日本文化史特殊研究ⅠB	教授	博士(文学)	外池　　昇*	
日本文化史特殊研究ⅡA 日本文化史特殊研究ⅡB	准教授	博士(文学)	鈴木　正信*	
日本文化史特殊研究ⅢA 日本文化史特殊研究ⅢB	准教授	博士(文学)	堀川　　徹	星槎大学
日本思想史特殊研究A 日本思想史特殊研究B	講師	博士(文学)	滝口　正哉	立教大学
文化人類学特殊研究ⅠA 文化人類学特殊研究ⅠB	教授	博士(人間環境学)	川田　牧人*	
文化人類学特殊研究ⅡA 文化人類学特殊研究ⅡB	講師	Ph. D.	ジェフリー・A・トルバート	ペンシルベニア州立大学 ハリスバーグ校
文化人類学特殊研究ⅢA 文化人類学特殊研究ⅢB	講師	博士(人間科学)	春日　直樹	
社会人類学特殊研究A 社会人類学特殊研究B	教授	博士(社会人類学)	上杉　富之*	

美学・美術史専攻

⊙博士課程前期

美学研究ⅠA 美学研究ⅠB	教授	博士(文学)	津上　英輔*	
美学研究ⅡA 美学研究ⅡB	教授	博士(文学)	津上　英輔	
美学研究ⅢA 美学研究ⅢB	講師	博士(文学)	渡辺　　裕	
芸術学研究ⅠA 芸術学研究ⅠB	講師	博士(文学)	長尾　　天	
芸術学研究ⅡA 芸術学研究ⅡB		休　　講		
芸術学研究ⅢA 芸術学研究ⅢB	准教授	博士(文学)	赤塚健太郎*	
日本美術史研究ⅠA	講師		野地耕一郎	泉屋博古館
日本美術史研究ⅠB	講師		高橋　真作	東京国立博物館
日本美術史研究ⅡA 日本美術史研究ⅡB	教授		相澤　正彦*	
日本美術史研究ⅢA 日本美術史研究ⅢB		休　　講		
東洋美術史研究ⅠA 東洋美術史研究ⅠB	教授		岩佐　光晴*	
東洋美術史研究ⅡA 東洋美術史研究ⅡB	講師	博士(文学)	山本　聡美	早稲田大学
西洋美術史研究ⅠA 西洋美術史研究ⅠB	教授	博士(文学)	高橋　健一*	
西洋美術史研究ⅡA 西洋美術史研究ⅡB	講師	博士(文学)	喜多崎　親*	
西洋美術史研究ⅢA 西洋美術史研究ⅢB	講師	博士(文学)	久米　順子	東京外国語大学
比較美術史研究A 比較美術史研究B	講師	博士(文学)	八木　春生	筑波大学
美学・美術史インターンシップ	教授	博士(文学)	赤塚健太郎	

⦿博士課程後期

美学特殊研究ⅠA 美学特殊研究ⅠB	教授	博士(文学)	津上　英輔*	
美学特殊研究ⅡA 美学特殊研究ⅡB	教授	博士(文学)	津上　英輔	
美学特殊研究ⅢA 美学特殊研究ⅢB	講師	博士(文学)	渡辺　　裕	
芸術学特殊研究ⅠA 芸術学特殊研究ⅠB	講師	博士(文学)	長尾　　天	
芸術学特殊研究ⅡA 芸術学特殊研究ⅡB		休　　講		
芸術学特殊研究ⅢA 芸術学特殊研究ⅢB	准教授	博士(文学)	赤塚健太郎*	
日本美術史特殊研究ⅠA	講師		野地耕一郎	泉屋博古館
日本美術史特殊研究ⅠB	講師		高橋　真作	東京国立博物館
日本美術史特殊研究ⅡA 日本美術史特殊研究ⅡB	教授		相澤　正彦*	
日本美術史特殊研究ⅢA 日本美術史特殊研究ⅢB		休　　講		
東洋美術史特殊研究ⅠA 東洋美術史特殊研究ⅠB	教授		岩佐　光晴*	
東洋美術史特殊研究ⅡA 東洋美術史特殊研究ⅡB	講師	博士(文学)	山本　聡美	早稲田大学
西洋美術史特殊研究ⅠA 西洋美術史特殊研究ⅠB	教授	博士(文学)	高橋　健一*	
西洋美術史特殊研究ⅡA 西洋美術史特殊研究ⅡB	講師	博士(文学)	喜多崎　親*	
西洋美術史特殊研究ⅢA 西洋美術史特殊研究ⅢB	講師	博士(文学)	久米　順子	東京外国語大学
比較美術史特殊研究A 比較美術史特殊研究B	講師	博士(文学)	八木　春生	筑波大学

コミュニケーション学専攻

⦿博士課程前期

コミュニケーション学研究ⅠA コミュニケーション学研究ⅠB	准教授	博士(教育学)	山内　香奈*
コミュニケーション学研究ⅡA コミュニケーション学研究ⅡB		休　講	
コミュニケーション学研究ⅢA コミュニケーション学研究ⅢB	教授	Ph. D.	南　保輔*
コミュニケーション学研究ⅣA コミュニケーション学研究ⅣB		休　講	
コミュニケーション学研究ⅤA コミュニケーション学研究ⅤB		休　講	
マスコミュニケーション学研究ⅠA マスコミュニケーション学研究ⅠB	教授	博士(経済学)	牧野　圭子*
マスコミュニケーション学研究ⅡA マスコミュニケーション学研究ⅡB		休　講	
マスコミュニケーション学研究ⅢA マスコミュニケーション学研究ⅢB	教授	博士(社会学)	渋谷　明子*
マスコミュニケーション学研究ⅣA マスコミュニケーション学研究ⅣB	准教授	博士(社会情報学)	新倉　貴仁*
マスコミュニケーション学研究ⅤA マスコミュニケーション学研究ⅤB	教授	博士(文学)	森　暢平*

⦿博士課程後期

コミュニケーション学特殊研究ⅠA コミュニケーション学特殊研究ⅠB	准教授	博士(教育学)	山内　香奈*
コミュニケーション学特殊研究ⅡA コミュニケーション学特殊研究ⅡB		休　講	
コミュニケーション学特殊研究ⅢA コミュニケーション学特殊研究ⅢB	教授	Ph. D.	南　保輔*
コミュニケーション学特殊研究ⅣA コミュニケーション学特殊研究ⅣB		休　講	
コミュニケーション学特殊研究ⅤA コミュニケーション学特殊研究ⅤB		休　講	
マスコミュニケーション学特殊研究ⅠA マスコミュニケーション学特殊研究ⅠB	教授	博士(経済学)	牧野　圭子*
マスコミュニケーション学特殊研究ⅡA マスコミュニケーション学特殊研究ⅡB		休　講	
マスコミュニケーション学特殊研究ⅢA マスコミュニケーション学特殊研究ⅢB	教授	博士(社会学)	渋谷　明子*
マスコミュニケーション学特殊研究ⅣA マスコミュニケーション学特殊研究ⅣB	准教授	博士(社会情報学)	新倉　貴仁*
マスコミュニケーション学特殊研究ⅤA マスコミュニケーション学特殊研究ⅤB	教授	博士(文学)	森　暢平*

ヨーロッパ文化専攻

⊙博士課程前期

▶西洋古典学研究Ａ 西洋古典学研究Ｂ	講師		大芝　芳弘	
▶歴史言語学研究Ａ 歴史言語学研究Ｂ	講師	博士(文学)	横山安由美	立教大学
ヨーロッパ思想研究ⅠＡ ヨーロッパ思想研究ⅠＢ	講師	Ph. D.	陶久明日香	学習院大学
ヨーロッパ思想研究ⅡＡ ヨーロッパ思想研究ⅡＢ		休　講		
ヨーロッパ思想研究ⅢＡ ヨーロッパ思想研究ⅢＢ		休　講		
ヨーロッパ思想研究ⅣＡ ヨーロッパ思想研究ⅣＢ	教授	博士(文学)	村瀬　鋼*	
ヨーロッパ史研究ⅠＡ ヨーロッパ史研究ⅠＢ	教授	Dr. Phil	中野　智世*	
ヨーロッパ史研究ⅡＡ ヨーロッパ史研究ⅡＢ		休　講		
ヨーロッパ史研究ⅢＡ ヨーロッパ史研究ⅢＢ	教授		林田　伸一*	
ヨーロッパ史研究ⅣＡ ヨーロッパ史研究ⅣＢ		休　講		
ドイツ語学文学研究ⅠＡ ドイツ語学文学研究ⅠＢ		休　講		
ドイツ語学文学研究ⅡＡ ドイツ語学文学研究ⅡＢ	教授	博士(文学)	明星　聖子*	
ドイツ語学文学研究ⅢＡ ドイツ語学文学研究ⅢＢ		休　講		
オーストリア文化論研究Ａ オーストリア文化論研究Ｂ		休　講		
ドイツ口承文芸論研究Ａ ドイツ口承文芸論研究Ｂ		休　講		
フランス語学文学研究ⅠＡ フランス語学文学研究ⅠＢ	講師	Ph. D.	中野　芳彦	慶應義塾大学
フランス語学文学研究ⅡＡ フランス語学文学研究ⅡＢ		休　講		

フランス語学文学研究ⅢA フランス語学文学研究ⅢB	教授	DL	有田　英也*	
広域芸術論研究A 広域芸術論研究B	准教授	Ph. D.	滝沢　明子*	
▶一般言語学研究A 一般言語学研究B	講師	Docteur	小野　　文	慶應義塾大学

▶印の授業科目は博士課程前期修了までにいずれかを必修とする

⊙博士課程後期

西洋古典学特殊研究A 西洋古典学特殊研究B	講師		大芝　芳弘	
歴史言語学特殊研究A 歴史言語学特殊研究B	講師	博士(文学)	横山安由美	立教大学
ヨーロッパ思想特殊研究ⅠA ヨーロッパ思想特殊研究ⅠB	講師	Ph. D.	陶久明日香	学習院大学
ヨーロッパ思想特殊研究ⅡA ヨーロッパ思想特殊研究ⅡB		休　講		
ヨーロッパ思想特殊研究ⅢA ヨーロッパ思想特殊研究ⅢB		休　講		
ヨーロッパ思想特殊研究ⅣA ヨーロッパ思想特殊研究ⅣB	教授	博士(文学)	村瀬　　鋼*	
ヨーロッパ史特殊研究ⅠA ヨーロッパ史特殊研究ⅠB	教授	Dr. Phil	中野　智世*	
ヨーロッパ史特殊研究ⅡA ヨーロッパ史特殊研究ⅡB		休　講		
ヨーロッパ史特殊研究ⅢA ヨーロッパ史特殊研究ⅢB	教授		林田　伸一*	
ヨーロッパ史特殊研究ⅣA ヨーロッパ史特殊研究ⅣB		休　講		
ドイツ語学文学特殊研究ⅠA ドイツ語学文学特殊研究ⅠB		休　講		
ドイツ語学文学特殊研究ⅡA ドイツ語学文学特殊研究ⅡB	教授	博士(文学)	明星　聖子*	
ドイツ語学文学特殊研究ⅢA ドイツ語学文学特殊研究ⅢB		休　講		

オーストリア文化論特殊研究Ａ オーストリア文化論特殊研究Ｂ		休　　講		
ドイツ口承文芸論特殊研究Ａ ドイツ口承文芸論特殊研究Ｂ		休　　講		
フランス語学文学特殊研究ＩＡ フランス語学文学特殊研究ＩＢ	講師	Ph. D.	中野　芳彦	慶應義塾大学
フランス語学文学特殊研究ⅡＡ フランス語学文学特殊研究ⅡＢ		休　　講		
フランス語学文学特殊研究ⅢＡ フランス語学文学特殊研究ⅢＢ	教授	DL	有田　英也*	
広域芸術論特殊研究Ａ 広域芸術論特殊研究Ｂ	准教授	Ph. D.	滝沢　明子*	
一般言語学特殊研究Ａ 一般言語学特殊研究Ｂ	講師	Docteur	小野　　文	慶應義塾大学

専任教員の紹介　2023年度在籍の教員

※各教員連絡先の [at] は @ に置き換えて下さい。

国文学専攻

小　林　真由美　　教授

［担　　当］上代文学

［2023年4月1日現在］59歳

［最 終 学 歴］1992年　成城大学大学院文学研究科国文学専攻後期課程

［最 終 学 位］2013年　博士（文学）（成城大学）

［専 門 分 野］日本文学（奈良時代から平安時代）を専攻対象とする。特に日本文学における仏教の受容の問題について研究をしている。『萬葉集』や、『日本霊異記』などの説話集における仏教思想の研究、『東大寺諷誦文稿』の注釈的研究をおこなっている。

［著　　書］『日本霊異記の仏教思想』（青簡舎　2014）

［共編書　等］『三宝絵を読む』（小島孝之・小林真由美・小峯和明編　吉川弘文館　2008）
『寺院縁起の古層―注釈と研究―』（小林真由美・北條勝貴・増尾伸一郎編　法藏館　2015）

［論　　文］「『萬葉集』の宴―思ふどちかざしにしてな―」（『成城文芸』175　2001）
「三宝の恩―『三宝絵』と『心地観経』報恩品」（『三宝絵を読む』吉川弘文館　2008）
「『藤氏家伝』の伊吹山伝説―武智麻呂と鬼神―」（『藤氏家伝を読む』　2011）
「『東大寺諷誦文稿』の浄土」（『成城文芸』219　2012）
「水の中の月―『東大寺諷誦文稿』における天台教学の受容について―」（『成城国文学論集』35　2013）
「東大寺諷誦文稿注釈〔一〕～〔八・結〕」（『成城国文学論集』36～43　2014～2021）
「『東大寺諷誦文稿』の文体について―附・『東大寺諷誦文稿』段落一覧―」（『成城国文学』38　2022）

［所 属 学 会］万葉学会、仏教文学会、説話文学会、日本民俗学会、和漢比較文学会

上　野　英　二　　教授

［担　　当］中古文学

［2023年4月1日現在］65歳

［最 終 学 歴］1984年　京都大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士課程

［取 得 学 位］1997年　京都大学博士（文学）

［専 門 分 野］国文学の、特に平安朝文学を専攻の対象領域としている。『源氏物語』の基礎的研究から研究を開始したが、近年は対象を広げ、他作品にもその関心を及ぼしつつある。関心の所在、研究方法などについては、以下の諸論を参照されたい。

［著　　書］『源氏物語序説』（平凡社選書）（平凡社）1995.

『源氏物語と長恨歌―世界文学の生成―』（岩波書店）2022.
［共　編　著］『佐竹昭広集 第1巻～第5巻』（岩波書店） 2009.～2010.
［論　　文］「仮名成立の意義　覚書―言葉の獲得―」『成城国文学』第37号　2021.
「日本第一の古典　古今和歌集」『成城国文学論集』第39輯　2017.
「伊勢物語のあそび」『文学』（季刊）第10巻第4号 1999.『文学』（隔月刊）第1巻第3号　2000.
「源氏物語における和歌」『成城文藝』第120号　1987.
「紫式部における日記と物語」『成城国文学論集』第20輯　1990.
「源氏物語革命―その結構について―」『文学』（隔月刊）第4巻第4号　2003.
「隆能源氏絵披見」『成城大学文芸学部創立三十五周年記念論文集』 1989.
「説話の生態の一例―更級日記に見る―」『成城国文学論集』第23輯　1995.
「菅原孝標女と源氏物語」『成城国文学論集』第22輯　1994.
「和漢混淆の記―方丈記考―」『成城国文学論集』第19輯　1989.
［所 属 学 会］中古文学会

大　谷　節　子　　教授

［担　　当］中世文学
［2023年4月1日現在］63歳
［最 終 学 歴］1988年京都大学大学院文学研究科国語学国文学専攻博士後期課程
［取 得 学 位］2003年京都大学博士（文学）
［専 門 分 野］能及び狂言を中心とする中世文学。享受史、文化史の視点からの素謡及び謡本研究。
［著　　書］『世阿弥の中世』（岩波書店、2007年）、『無辺光　片山幽雪聞書』（共著、岩波書店、2018年）
［編　　著］伊藤正義中世文華論集 第一巻『謡と能の世界（上）』（共編、和泉書院、2012年）
『謡の家の軌跡　浅野太左衛門家基礎資料集成』（和泉書院、2022年）
［論　　文］「能「木賊」――禅竹の物狂能――」（『観世』88巻5号、2021年）
「狂言「無言経」考――悟りと笑い――」（『成城国文学論集』第43集、2021年）
「狂言「拄杖」と『無門関』第四四則「芭蕉拄杖」」
（『成城国文学論集』第41集、2019年）
「狂言「八句連歌」の「をかし」――狂言と俳諧連歌――」
（『国語と国文学』95巻9号、2018年）
「毘沙門堂本古今集と能「女郎花」「姥捨」」
（『中世古今和歌集注釈の世界――毘沙門堂本古今集注をひもとく――』、勉誠出版、2018年）
「狂言「かくすい」考」（『成城国文学論集』第39集、2017年）
「狂言「釣狐」と『無門関』第二則「百丈野狐」」
（『禅からみた日本中世の文化と社会』ぺりかん社、2016年）
「弘安元年銘翁面をめぐる考察――能面研究の射程――」
（『能面を科学する』勉誠出版、2016年）

「世阿弥自筆本「カシワザキ」以前――宗牧独吟連歌注紙背「柏崎」をめぐって」
（『国語国文』83 巻 12 号、2014 年）
「「頼政」面を溯る――能・狂言面データベースの可能性――」
（『デジタル人文学のすすめ』勉誠社、2013 年）
［所 属 学 会］中世文学会、能楽学会、日本演劇学会

宮　﨑　修　多　　教授

［担　　当］近世文学
［2023 年 4 月 1 日現在］63 歳
［最 終 学 歴］1986 年 9 月　九州大学大学院文学研究科国語国文学専攻博士課程中途退学
［専 門 分 野］江戸～明治時代の漢文学における表現史的考察。当代における文学表現の主流であった漢詩文表現について、儒学思想史や学芸史を再覧しつつも作品自体の変質を辿ることを目的としている。このことは近世期の文学理論を、そのまま当時の実作の潮流と安易に結合させようとする従来の研究に対する疑問が契機であった。また、狂詩などの戯作、遊戯性の高い詩文、地方文人、幕臣文人、明治文人など、いわば分野的時間的空間的にも周縁に属する部分を発掘、かつ意味付けることにより、正格の江戸漢詩文の境界と特質を定めようと心掛けている。
［編　　著］『学海日録』全 12 巻（共編、岩波書店、1990 ～ 1993）
新日本古典文学大系明治編『漢詩文集』（共著、岩波書店、2004）
新日本古典文学大系明治編『漢文小説集』（共著、岩波書店、2005）
［論　　文］「国風・詠物・狂詩―古文辞以前における遊戯的漢詩文の側面」『語文研究』56 号（九州大学国語国文学会、1983）
「祭酒期の原古処とその周囲―筑前詞壇瞥見」『福岡県史』近世研究編福岡藩四（福岡県、1989）
「野郎評判記初期の型について」『国語国文』60 巻 11 号（京都大学国語国文学会、1991）
「大田南畝における雅と俗」『日本の近世』第 12 巻（中央公論社、1993）
「古文辞流行前における林家の故事題詠について」『近世文藝』61（日本近世文学会、1995）
「漢文戯作」『岩波講座　日本文学史』第 10 巻（岩波書店、1996）
「鳩巣小説」の変化と諸本――近世写本研究のために」『語文研究』86・87（九州大学国語国文学会、1999）
「漢訳文と明治の紀事文」『明治文学の雅と俗』（岩波書店、2001）
「江戸中期における擬古主義の流行に関する臆見」『一八世紀日本の文化状況と国際環境』（笠谷和比古編、思文閣出版、2011）
「服部南郭の白詩受容について」『成城国文学論集』第 41 集（成城大学大学院文学研究科、2019）
［所 属 学 会］日本近世文学会、和漢比較文学会

池　田　一　彦　　教授

［担　　当］日本近代文学

［2023 年 4 月 1 日現在］67 歳

［最 終 学 歴］1986 年　立教大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期中途退学

［専 門 分 野］日本近代文学、特に明治初期から中期にかけての文学状況を個々の作家・作品・書物に即しつつ研究している。斎藤緑雨の研究から出発し、その後、南新二等、独自の価値を有しながらも現在文学史的に埋もれた感のある文人・文章の発掘や紹介、考察を行ない、また戯作的作物のいちいちについて具体的に検証することを継続している。明治以降、大正・昭和期の作家や作品についても、主として価値あると認められる作品の解読・分析を行なっている。

［著　　書］『斎藤緑雨全集』全 8 巻（共編、筑摩書房、1990 ～ 2000 年）

『斎藤緑雨論攷』（おうふう、2005 年）

『明治戯作を読む』（おうふう、2019 年）

［論　　文］「『街道』をめぐる『言葉』―『夜明け前』小論―」『昭和文学論考』（小田切進編）八木書店、20 頁（359-378 頁）、1990 年 4 月

「緑雨とレトリック―その型と形式への意志―」『日本近代文学』第 45 集、14 頁（31-44 頁）、1991 年 10 月

「南新二の投書活動」『明治開化期と文学』（国文学研究資料館編）臨川書店、50 頁（53-102 頁）、1998 年 2 月

「石川鴻斎『夜窓鬼談』に係る二三の書誌的事項について」『成城国文学論集』第 29 輯、23 頁（223-250 頁）2004 年 3 月

「『変窟蟻の世界』の世界 ―一名痴蟻神礼讃 ―」『成城国文学論集』第 31 輯、35 頁（149-183 頁）2007 年 3 月

「大久保夢遊『文明開化地獄極楽一周記』を巡って」『成城国文学論集』第 33 輯、40 頁（85-124 頁）2010 年 3 月

「南柯堂夢笑道人『決闘状』ヲ読ム」『成城国文学論集』第 35 輯、50 頁（59-108 頁）2013 年 3 月

「菊亭静『滑稽新話明治流行嘘八百』瞥見」『成城国文学論集』第 36 輯、47 頁（87-133 頁）2014 年 3 月

「嘲世庵喜楽『呆た浮世』書き抜き」『成城国文学論集』第 39 輯、31 頁（101-131 頁）2017 年 3 月

「南新二『福笑ひ』寸描――〈教訓〉を視座として――」『成城国文学論集』第 41 輯、26 頁（49-74 頁）2019 年 3 月

［所 属 学 会］日本近代文学会

山　田　尚　子　　准教授

［担　　当］漢文学

［2023 年 4 月 1 日現在］55 歳

［最 終 学 歴］慶應義塾大学大学院文学研究科国文学専攻博士課程後期
［取 得 学 位］博士（文学）（慶應義塾大学）
［専 門 分 野］日本人の手になる漢詩文を中心に、漢籍や中国文化がいかに日本に受容されたか、その具体相について研究している。
［著　　書］『中国故事受容論考―古代中世日本における継承と展開―』（勉誠出版、2009 年）
『重曹と連関―続中国故事受容論考―』（勉誠出版、2016 年）
［論　　文］「細川重賢の蔵書と学問―漢文史料をめぐって―」（『細川家の歴史資料と書籍』吉川弘文館、2013 年）
「「詩」と「酔」の空間」（『成城国文学論集』39 輯、2017 年）
「中国故事の表現と展開―班婕妤・嵇康の故事を手がかりとして―」（『中古文学』100 号、2017 年）
「西王母譚の展開―『唐物語』第十六話をめぐって―」（『慶應義塾中国文学会報』2 号、2018 年）
「嫡男の登用と任摂政と―藤原兼実上表の背景」（小原仁編『変革期の社会と九条兼実―『玉葉』をひらく』勉誠出版、2018 年）
［所 属 学 会］和漢比較文学会、中世文学会、中古文学会

竹　内　史　郎　　准教授

［担　　当］日本語学・文法史
［2023 年 4 月 1 日現在］50 歳
［最 終 学 歴］大阪大学大学院文学研究科文化表現論専攻博士後期課程修了
［取 得 学 位］2008 年　博士（文学）（大阪大学）
［専 門 分 野］各時代語の特性を明らかにしたり通時的に言語変化を説明したりすることで、歴史的な観点から日本語の文法的な側面についての考察を行っている。近年は、言語類型論の観点を導入し時代差のみならず地域差・文体差をも考慮しながら日本語のバリエーションのあり方を多角的に考えていくことを目指し、そのためのアプローチを模索している。
［著　　書］『日本語の格標示と分裂自動詞性』（くろしお出版、2019 年）、下地理則との共編著
『日本語の格表現』（くろしお出版、2022 年）、木部暢子、下地理則との共編著
［論　　文］「ミ語法の構文的意味と形態的側面」『国語学』55 巻 1 号、2004 年
「サニ構文の成立・展開と助詞サニについて」『日本語の研究』1 巻 1 号、2005 年
「ム型・ブ型・ミス型動詞とミ語法の形態論的必然性による推移」『萬葉』191 号、2005 年
「古代日本語の格助詞ヲの標示域とその変化」『国語と国文学』85 巻 4 号、2008 年
「不透明化しつつある「国語」という概念」『成城教育』152 号、2011 年
「取り立て否定形式の文法化―岡山方言と関西方言を対照して―」『日本語文法』13 巻 1 号、2013 年
「「Ｖヤシナイ」について―現代共通語における取り立て否定形式の文法化―」『成

城国文学論集』36 輯、2014 年
［所 属 学 会］日本語学会、日本語文法学会、日本言語学会
［連　絡　先］siberius[at]seijo.ac.jp

英文学専攻

井　上　　徹　　教授

［担　　当］英語学
［最 終 学 歴］ウィスコンシン大学マディソン校大学院言語学科博士課程修了
［取 得 学 位］Ph. D. in Linguistics（University of Wisconsin-Madison）
［専 門 分 野］専門分野は英語の語法文法研究であり、特にモダリティを表す副詞表現に関心がある。形式（構造）が異なれば意味も必ず変化するという視点に立ち、これまであまり取り上げられてこなかった文法現象に光を当て、記述と理論のバランスのとれた研究を目指している。研究の主眼は、多様な言語資料をもとにして修正伝統文法、生成文法、認知文法などで得られた知見を見直すことにある。副詞補文節（adverbial complement clause）、評言節（comment clause）、補文省略（complement ellipsis）、従属節の主節化（insubordination）、語彙化（lexicalization）などを主要なテーマにしている。
［著　　書］『SELECT English Expression I』（共著、三省堂、2014、改訂版 2017）
『VISTA Logic and Expression I』（共著、三省堂、2022）
『VISTA Logic and Expression II』（共著、三省堂、2023 年）
［主 要 論 文］「seem as if 構文の有標性について」『英語語法文法研究』第 9 号.（英語語法文法学会編、開拓社、2002）
“Further remarks on adverbial complement clauses.” *Seijo English Monographs* No. 36.（成城大学大学院文学研究科、2003）
「英語における補文省略現象」*Seijo English Monographs* No. 37.（成城大学大学院文学研究科、2004）
「経験の直接性について―look like 構文と意味の関係」『英語語法文法研究』第 15 号（英語語法文法学会編、開拓社、2008）
「far from 句の語法をめぐって」*Seijo English Monographs* No. 42.（成城大学大学院文学研究科、2010）
「英語多読を通じた個別自律学習の支援について」『常磐国際紀要』第 14 号（常磐大学国際学部、2010）
「感嘆詞としての as if の語法」『成城文藝』第 240 号（成城大学文芸学部、2017）
“A Corpus-based study of infinitival *wh*-clauses: A case study on *why to*-infinitives.” *Seijo English Monographs* No. 45（成城大学大学院文学研究科、2020）
“A far from simple matter revisited: The ongoing grammaticalization of f*ar from*.

（Laurel J. Brinton との共著）*Late Modern English: Novel Encounters*. Eds. Merja Kytö and Erik Smitterberg. Amsterdam: John Benjamins, 271-293.
「主節を伴わない as if 構文の特性について」『成城文藝』第 254 号（成城大学文芸学部、2020）

［所 属 学 会］日本言語学会、日本英語学会、英語語法文法学会、日本多読学会

［連　絡　先］tinoue[at]seijo.ac.jp

水　澤　祐美子　　准教授

［担　　当］社会言語学、英語教育学（TESOL）

［最 終 学 歴］オーストラリア連邦ウーロンゴン大学大学院博士課程修了

［取 得 学 位］Ph. D. in Linguistics（University of Wollongong）

［専 門 分 野］社会言語学と第二言語習得の分野において、選択体系機能理論を応用した研究を行う。談話分析や多モード分析に同理論を援用し、文化的背景や言語使用の状況を含めた社会と言語の関係を明らかにすること、日本人英語学習者の英語ライティングに同理論を援用し、日本人英語学習者の英語習得における問題点を探求することを最近の研究テーマとしている。

［著　　書］“Australia embracing multicultural society” In *Multiculturalism and multicultural society*（co-authorship）. DTP Publishing, Tokyo. 2017 年 10 月

［論　　文］“Investigating the directive genre in the Japanese and Australian workplace: A systemic functional approach”（pp. 1-275）. Doctoral dissertation, University of Wollongong. 2009 年 7 月
“Text structure of written administrative directives in the Japanese and Australian workplaces” *Japanese Journal of Systemic Functional Linguistics*, Japan Association of Systemic Functional Linguistics, 4, 41-52. 2007 年 4 月
“Language Use in English Academic Writing by a Tertiary Overseas Student” *Journal of Health and Sports Science Juntendo University*, Juntendo University, 1（4）, 494-501. 2010 年 4 月
「敬語が必要とされる条件～組織における敬語を考える」『杏林大学研究報告―教養部門』杏林大学，第 28 号，117-125. 2011 年 2 月（査読なし）
「社会的機能に基づくテクスト分類法の構築に向けて―システミック理論の観点から―」（共著）『機能言語学研究』日本機能言語学会，第 6 号，83-104. 2011 年 4 月
「機能文法における節境界の問題と認定基準の提案」（共著）『機能言語学研究』日本機能言語学会，第 6 号，17-58. 2011 年 4 月
「日本庭園の記号論的解釈―選択機能言語学の視点から」『神奈川大学言語研究』神奈川大学言語研究センター，第 36 号，125-139. 2014 年 3 月
「音読訓練は英語力向上に貢献するのか：大学生初級英語学習者を対象として」（共著）『Media, English and Communication』日本メディア英語学会，第 4 号，161-179. 2014 年 8 月

「学習者コーパスを用いた日本人中高生による英作文の特徴と課題」『Lingua』上智大学言語研究センター，第 25 号，69-87．2015 年 2 月
「絵本における登場人物と読み手が織りなす三者関係による対人的な意味の様相」（共著）『機能言語学研究』日本機能言語学会，第 8 号，99-113．2015 年 6 月
「英語リスニング能力向上のための映画教材の活用」『Lingua』上智大学言語研究センター，第 26 号，97-111．2016 年 3 月
「小学校英語における絵本を活用した教材研究の視点」（共著）『Media, English and Communication』日本メディア英語学会，第 6 号，27-44．2016 年 8 月
「日本人大学生のショート・エッセイにおける言語的特徴」『Lingua』上智大学言語研究センター，第 27 号，27-42．2017 年 2 月
“Effectiveness of read-aloud instruction on motivation and learning strategy among Japanese college EFL students”（co-authorship）*English Language Learning*, Canadian Center of Science and Education, 10(4), 1-14．2017 年 4 月
「英語ビジネス E メールにおける依頼・命令のジャンル構造の指標」『機能言語学研究』日本機能言語学会，第 9 号，37-53．2017 年 7 月
「小学校国語科教科書に採択された絵本において学習可能なバイモーダル・テクストの枠組み」（共著）『機能言語学研究』日本機能言語学会，第 9 号，55-72．2017 年 7 月
“The directive genre in the Japanese workplace” In E. Thomson, M. Sano, and H. Joyce（Eds.）. *Mapping genres, mapping culture: Japanese texts in context*（pp. 57-92）. Amsterdam: John Benjamin Publishing Company．2017 年 12 月
「小学校国語科教科書におけるマルチモーダル・テクストの学習可能な枠組み―小学校低学年～高学年の物語教材を通して―」（共著）『機能言語学研究』日本機能言語学会，第 10 号，55-72．2019 年 9 月
“Lexicogrammatical and semantic development in academic writing of EFL learners: A systemic functional approach” *Modern Journal of Studies in English Language Teaching and Literature*, the Academics Education Journals, the Philippines, 2(2), 105-117．2020 年 12 月

［所 属 学 会］日本機能言語学会、日本英語学会、社会言語科学会、日英言語文化学会、日本メディア英語学会、オーストラリア学会、絵本学会、AVANCA | CINEMA

［連　絡　先］mzswymk[at]seijo.ac.jp

松　田　美作子　　教授

［担　　当］イギリス文学
［最 終 学 歴］英国ウェールズ大学 M. Phil. 課程修了
［取 得 学 位］博士（芸術学）日本大学
［専 門 分 野］シェイクスピアを中心とした初期近代英国における文学と視覚文化の相関性の研究。「大陸」の古典復興運動がどのように英国で受容され、変容していったのか、

視覚文化の重要な一端を占めるエンブレム文献を援用して追及している。また、19世紀英国に起こった宗教刷新とエンブレム復興運動についても、「大陸」や日本との関係を含めて研究を行っている。

［著　　書］『シェイクスピアとエンブレム―人文主義の文化的基層』（慶應義塾大学出版会、2012）

Occasio in Renaissance Emblem Books（*Seijo English Monographs* 38, Seijo University, 2006）

『初期近代英国のエンブレムブック』（金星堂、2021）

［編　　著］『イメージの劇場：近代初期英国のテクストと視覚文化』（英光社、2014）

［主 要 論 文］"The Renaissance Concept of Opportunity and *Richard II*"（『英文学研究』英文号、1992）

"The Bee Emblem in *The Rape of Lucrece*" in *Hot Questrists after the English Renaissance: Essays on Shakespeare and His Contemporaries*, ed. by Yasunari Takahashi（New York: AMS Press, 2000）

「シェイクスピアの *Venus and Adonis* とオルフェウス伝説」金子雄司・大西直樹編『言葉と想像力』（開文社出版、2001）

「明治末期から大正初期の文芸における象徴主義の受容とエンブレム的表現」『成城文藝』224 号（2013）

「『ヴェニスの商人』における Fortune と fortune―usance と interest を巡って」（松田美作子編著『イメージの劇場―近代初期英国のテクストと視覚文化』、英光社、2014）

"Devotional Emblems and Protestant Meditation in *Hamlet*", *English Studies*, 98（2017）

「革命前後のエンブレム作家たちと宗教文化―詩篇（歌）137 番を巡って」『十七世紀の革命 / 革命の十七世紀』17 世紀英文学会論文集第 18 巻（金星堂、2017）

木　下　　誠　　教授

［担　　当］イギリス文学

［最 終 学 歴］筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科

［取 得 学 位］博士（文学）（筑波大学）

［専 門 分 野］20 世紀のイギリス文学と文化、とくに 1910 年代から 30 年代までのモダニズムとその周辺を専門とする。(1) 帝国主義と優生学がモダニズム文学・文化に与えた影響　(2) 19 世紀ウィリアム・モリス以降の文学と建築デザインのインターフェイス　(3) 18 世紀ピクチャレスクの美学を第二次世界大戦後のロンドン復興に活かした都会のランドスケイプ　(4)「イギリス社会の金融化」以降のモダニズム文学・文化　(5) 英語文学作品の映画化、など。

［著　　書］『モダンムーヴメントの D・H・ロレンス――デザインの 20 世紀／帝国空間／共有するアート』（単著、小鳥遊書房、2019 年）

『イギリス文学と映画』（共編著、三修社、2019 年）
『ポスト・ヘリテージ映画――サッチャリズムの英国と帝国アメリカ』（共著、上智大学出版、2010 年）
『愛と戦いのイギリス文化史1900－1950年』（共編著、慶應義塾大学出版会、2007年）

［主 要 論 文］（2010 年以降）
“D. H. Lawrence’s “Elephant” in the Imperial Contexts: Royal Tourism, *The English Review* and the Consumer Culture of Empire.”（*Seijo English Monographs*（No. 42）2010 年）
「煉瓦とコンクリート――セント・パンクラス駅再開発からグローバリゼーションへ」（川端康雄ほか（編）『愛と戦いのイギリス文化史 1951 － 2010 年』慶應義塾大学出版会、2011 年）
「“Why Design and Plan?” ――雑誌『建築評論』とポスト・レッセフェール期の D. H. ロレンス」（*Seijo English Monographs*（No. 43）2012 年）
「D. H. ロレンスの亡霊物語と境界侵犯――心霊主義、神智学、「喜ばしき亡霊」」（富士川義之・結城英雄（編）『亡霊のイギリス文学――豊穣なる空間』（国文社、2012 年）
「インダストリアル・アートとしての絵画――D. H. ロレンス「壁に掛けられた絵」、『建築評論』、英国モダンムーヴメント」（日本ロレンス協会（編）『21 世紀の D. H. ロレンス』国書刊行会、2015 年）
「A・R・オラージュの中世主義的モダニズム――ヴィクトリアニズムとモダニズムの文化の分断／継承」（『ヴィクトリア朝文化研究』No. 15, 2017 年 11 月）
「ピクチャレスクな都会のイングランド――ニコラウス・ペヴスナーと第二次大戦後のミドルブラウ・タウンスケープ」（中央大学人文科学研究所（編）『英国ミドルブラウ文化研究の挑戦』中央大学出版部、2018 年）
「呼びかける声に応えて／抗って――シャーロット・ブロンテとキャリー・フクナガ監督の『ジェイン・エア』」（共編著『イギリス文学と映画』2019 年、pp. 92-107 所収）
「『緊縮ノスタルジア』と拡張／収縮するモダニズム」（『ヴァージニア・ウルフ研究』第 39 号, 2022 年 11 月）

［所 属 学 会］日本英文学会、日本ロレンス協会、ヴィクトリア朝文化研究学会
［連　絡　先］mkino[at]seijo.ac.jp

松　川　祐　子　　教授

［担　　当］アメリカ文学
［最 終 学 歴］ブラウン大学大学院英文学科博士課程修了
［取 得 学 位］Ph. D. in English（Brown University）
［専 門 分 野］19 世紀末 20 世紀初めのアメリカ文学、アジア系アメリカ文学、およびオリエンタリズム研究。南北戦争から第 1 次世界大戦までのリアリズム文学の時代に活躍した作

家、特に女性小説家と世界を旅するアメリカ人女性の表象の研究を行っている。また、同時代のアジア系アメリカ文学とオリエンタリズムの関係も研究テーマのひとつである。現代日系アメリカ人女性作家の作品中に多様に表現される「日本」や現代アメリカ文化にみられるオリエンタリズムについても研究をしている。

［共　編　著］*Re/collecting Early Asian America: Essays in Cultural History*. Ed. Josephine Lee, Imogene Lim, and Yuko Matsukawa. Philadelphia: Temple University Press, 2002.

［主 要 論 文］"Representing the Oriental in Nineteenth-Century Trade Cards." *Re/collecting Early Asian America: Essays in Cultural History*. Eds. Josephine Lee, Imogene Lim, and Yuko Matsukawa. Philadelphia: Temple University Press, 2002. 200–17.

"Onoto Watanna's Japanese Collaborators and Commentators." *The Japanese Journal of American Studies* 16（2005）: 31–53.

"'Face to Face with Italy': American Women in Elizabeth Spencer's *The Light in the Piazza*." *Seijo English Monographs* 39（2007）: 1–60.

"Defining the American Flâneuse: Constance Feminore Woolson and 'A Florentine Experiment.'" *The Japanese Journal of American Studies* 19（2008）: 83–102.

「アメリカのシャロット姫たち―19世紀半ばから20世紀半ばの米国女性作家とアーサー王物語」松田隆美、原田範行、高橋勇　編著『中世と中世主義を超えて―イギリス中世の発明と受容―』慶応大学出版会、2009年、267–97頁。

「世紀転換期のリラ・キャボット・ペリーとドメスティック・スペースとしての日本」『アメリカ研究』44号、2010年、19–37頁。

"Elizabeth Bishop, Brazil, and the Question of Home." *Seijo English Monographs* 43（2012）：527–47.

"Chang-rae Lee's Literary Palimpsests in *Aloft*." *Seijo English Monographs* 44（2015）：125–40.

"Mixing Memory and Science: Kimiko Hahn's *Toxic Flora* and the Idea of Home." *Feminist Studies in English Literature* 24.1（2016）: 131–57.

"Cross-dressing as whitewashing: the Kimono Wednesdays protests and the erasure of Asian/American bodies." *Inter-Asia Cultural Studies* 20.4（2019）: 582–595.

［所 属 学 会］日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本アメリカ学会、アジア系アメリカ文学会、Modern Language Association, American Studies Association

［連　絡　先］matsukawa[at]seijo.ac.jp

鶴　見　良　次　　教授

［担　　当］英語文化

［最 終 学 歴］1989年　筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科

［取 得 学 位］2001年11月　博士（文学）（筑波大学）

［専 門 分 野］イギリス英語教育史。民衆教育が始められた近代以降のイギリスの初・中等学校に

おいて、英語の読み書きや文学の教育がどのように行われてきたかを、歴史的な資料をもとに研究している。またこの分野と深い関わりのある識字史、読書史、児童文学史にも関心を持っている。

［著　　書］『文学の文化研究』（共著、研究社出版、1995）
『世界・日本 児童文学登場人物辞典』（項目執筆、玉川大学出版部、1998）
The Cambridge Guide to Children's Books in English（項目執筆、Cambridge University Press, 2001, UK）
『マザー・グースとイギリス近代』（岩波書店、2005）
『イギリス近代の英語教科書』（開拓社、2021）

［主 要 論 文］The Development of Mother Goose in Britain in the Nineteenth Century', *Folklore*, vol. 101: i（1990, UK）
'Between Hymnbook and Textbook: Elizabeth Hill's Anthologies of Devotional and Moral Verse for the Late Charity Schools', *Paradigm*, vol. 2, issue 1（2001, UK）
「後期チャリティー・スクールの英語教材としての墓碑詩――18 世紀イギリスの英語教育についての一研究」（『成城大学短期大学部紀要』第 35 号、2003）
「ヴァナキュラーな『古典』の編纂――18 世紀イギリスにおける英語教材としてのアンソロジーの隆盛」（『成城大学短期大学部紀要』第 36 号、2004）
「ラテン語文法訳読と母語教育――ジョン・ブリンズリー『ルーデゥス・リテラリウス』と 17 世紀イギリスの英語教育」（『成城文藝』第 200 号、2007）
「イギリス慈善学校のリテラリー・カリキュラム――ジェイムズ・トールボットの教師用手引書『クリスチャン教師』（1707）」（『社会イノベーション研究』第 8 巻、第 2 号、2013）
「慈善学校運動」とキリスト教知識普及協会――M・G・ジョーンズ『慈善学校運動』（1938）以後の研究をふまえて」（『成城文藝』第 240 号、2017）
「ピューリタンの公教育構想と 18 世紀の慈善学校」（『社会イノベーション研究』第 14 巻、第 1 号、2019）
「2、3 歳児から始める――バーボールド夫人とトリマー夫人の読み書き教育」（『社会イノベーション研究』第 18 巻、第 1 号、2022）

［所 属 学 会］日本英文学会、英語圏児童文学会、近代英語協会、The Textbook Colloquium（教科書学会、UK）

［受賞学術賞］日本児童文学学会特別賞（2006）

［連　絡　先］tsurumi[at]seijo.ac.jp

日本常民文化専攻

上　杉　富　之　　教授

［担　　当］社会人類学

［2023 年 4 月 1 日現在］66 歳

［最 終 学 歴］1992 年　東京都立大学大学院社会科学研究科社会人類学専攻博士課程

［取 得 学 位］1997 年　博士（社会人類学）（東京都立大学）

［専 門 分 野］国境を越えた人の大規模移動（トランスナショナリズム）やグローバル化に伴う社会・文化の再編（グローカル研究）、新生殖医療技術が現代社会や文化に及ぼす影響に関する人類学的研究、ボルネオ焼き畑農耕民社会の民族誌的研究。

［著　　書］『贈与交換の民族誌―ボルネオ・ムルット社会の親族と祭宴関係のネットワーク』国立民族学博物館　1999.

［編 著 書 等］『社会と文化をグローカルに見て、考える』（グローカル研究叢書 10），成城大学グローカル研究センター，2021.

T. Uesugi and K. Takae（eds.), *Revisiting Glocalization in Japan: Two Lectures by R. Robertson*, Center for Glocal Studies, Seijo University, 2019.

T. Uesugi and S. Mari（eds.), *Glocal Perspectives on Intangible Cultural Heritage Local Communities, Researchers, States and UNESCO,* Center for Glocal Studies, Seijo University, 2017.

『社会接触のグローカル研究』、グローカル研究センター、2016（編著）.

T. Uesugi and M. Yamamoto（eds.), *The Perspective of Glocalization,* Center for Glocal Studies, Seijo University, 2016.

『グローカリゼーションと越境』（グローカル研究叢書）グローカル研究センター、2011（編著）.

『共振する世界の対象化に向けて―グローカル研究の理論と実践―』グローカル研究センター、2011（共編）.

『グローカル研究の可能性―社会的・文化的な対称性の回復に向けて―』グローカル研究センター、2010（共編）.

『生殖技術と家族Ⅱ―生殖革命と親・子―』早稲田大学出版部、2008（共編）.

『現代殖医療―社会科学からのアプローチ』世界思想社、2005（編著）.

［訳　　書］ジョージ・チョーンシー『同性婚―ゲイの権利をめぐるアメリカ現代史―』（明石書店、2006 共訳）.

［論　　文］「『地域学』の誕生・展開とその今日的意味と意義―グローカル研究の観点から」上杉富之（編）『社会と文化をグローカルに見て、考える』成城大学グローカル研究センター、2021.

「人種差別の『包括的定義』と『交差性』―国連人種差別撤廃委員会の勧告と日本政府の応答をめぐって―」『日本常民文化研究』第 36 輯、2021.

「グローカル研究の構想とその射程」成城大学グローカル研究センター（編）『グ

ローカル研究の理論と実践』東信堂、2020.
「『グローカル研究』の課題と展望についての覚え書き―ローカルの人やものとその働きかけに焦点を当てる―」『日本常民文化紀要』第33輯、2018.
“Glocal Studies”: Formulating and Conducting Studies on Glocalization. In *The Perspective of Glocalization: Addressing the Changing Society and Culture under Glocalization*, T. Uesugi and M. Yamaoto（eds.), Center for Glocal Studies, Seijo University, 2016.
「社会接触のグローカル研究―グローバル化とオルター・グローバリゼーション―」上杉富之（編）『社会接触のグローカル研究』グローカル研究センター、2016.
「グローバル研究を超えて―グローカル研究の構想と今日的意義について―」『グローカル研究』（成城大学グローカル研究センター）創刊号、2014.
「ポスト生殖革命時代の親子と家族―多元的親子関係と相互浸透的家族―」『法律時報』（日本評論社）86巻3号、2014.
「複数化する親子と家族―ポスト生殖革命時代の親子・家族関係の再構築―」河合利光（編）『家族と生命継承―文化人類学研究の現在』時潮社、2012.
「一国民俗学、比較民俗学、そして世界民俗学へ―柳田國男の見果てぬ『夢』」『現代思想』第40巻第12号（臨時増刊号『総特集柳田國男『遠野物語』以前／以後』）、2012.

［所 属 学 会］日本文化人類学会、東南アジア学会、日本オセアニア学会、比較家族史学会、日本民俗学会、AJJ（Anthropology of Japan in Japan）

［連　絡　先］uesugi[at]seijo.ac.jp

及　川　祥　平　　准教授

［担　　当］民俗学

［2023年4月1日現在］40歳

［最 終 学 歴］2012年　成城大学大学院博士課程後期　日本常民文化専攻　単位取得退学

［取 得 学 位］2015年　博士（文学）（成城大学）

［専 門 分 野］民俗学。民俗信仰研究、現代民俗学。民俗信仰研究については人神祭祀への関心を主としつつ、偉人顕彰、歴史の資源化等を関連づけて論じることで人々の歴史認識のあり方を究明することを目指している。現代民俗学についてはドイツ語圏民俗学の日常学的展開に触発されつつ、柳田國男の『明治大正史世相篇』の継承を意識し、日常学、現在学、世相史学としての民俗学の実質化に取り組んでいる。とりわけ、衣食住やライフコースなどを主要な対象としている。

［著　　書］単著
『偉人崇拝の民俗学』（勉誠出版、2017）
編著
『民俗学の思考法』（岩本通弥、門田岳久、田村和彦、川松あかりと共編著、慶應義塾大学出版会、2021）

『東日本大震災と民俗学』（加藤秀雄、金子祥之、クリスチャン・ゲーラットと共編著、成城大学グローカル研究センター、2019）

［論　　文］「『設楽原』の発見―時代劇メディアの民俗学」大石学・時代考証学会編『戦国時代劇メディアの見方・つくり方』（勉誠出版、2021）

「災禍と『日常の記録』―宮城県気仙沼市旧小泉村での調査から」標葉隆馬編『災禍をめぐる「記憶」と「語り」』（ナカニシヤ出版、2021）

「害虫と生活変化―ゴキブリへの対処を事例として」『民俗学研究所紀要』45（成城大学民俗学研究所、2021）

「現代の産育儀礼をめぐる予備的考察」『日本常民文化紀要』36（成城大学大学院文学研究科、2021）

「『人生儀礼』考―現代世相への対応に向けて」『成城文藝』254（成城大学文芸学部、2020）

「史跡の形成と地域間交流―山梨県民の長篠・設楽原への関与に注目して」『民俗学論叢』35（相模民俗学会、2020）

「民俗信仰研究の動向と課題」『日本民俗学』300（日本民俗学会、2019）

「ドイツ語圏民俗学の日常学化をめぐって―その経緯と意義」『日常と文化』6（クリスチャン・ゲーラットとの共著、日常と文化研究会、2018）

「義経信仰をめぐる予備的考察―北海道平取町の義経神社を事例に」松崎憲三先生古稀記念論集編集委員会編『民俗的世界の位相―変容・生成・再編』（慶友社、2018）

「信仰体験談にみる生駒聖天信仰―『歓喜』収録記事を素材として」松崎憲三・山田直己（岩田書院、2018）

「『歴史』と姉妹都市・友好都市」松尾恒一編『東アジア世界の民俗』（勉誠出版、2017）

「地域史を根拠とする自治体間交流の諸相―交流締結敬意の分析から」『グローカル研究』3（成城大学グローカル研究センター、2016）

［所 属 学 会］日本民俗学会、現代民俗学会

［連　絡　先］oikawa[at]seijo.ac.jp

川　田　牧　人　　教授

［担　　当］文化人類学

［2023 年 4 月 1 日現在］59 歳

［最 終 学 歴］1993 年　筑波大学大学院博士課程歴史・人類学研究科　満期退学

［取 得 学 位］2000 年　博士（人間環境学）（九州大学）

［専 門 分 野］文化人類学、宗教人類学。フィールドとして東南アジア島嶼社会、ならびに日本における民俗社会と宗教を対象として、民俗信仰や民衆宗教のシンボルと実践を、聖像崇拝や呪術、地方祭祀などから解明する民族誌的研究をすすめている。近年ではモノとしての聖具をめぐる諸実践、呪術的実践と科学その他の近代的諸実践の関係

性、民俗世界における演芸活動と社会環境創生など多様なトピックへも研究関心を広めている。

［著　　書］単著

『祈りと祀りの日常知　フィリピン・ビサヤ地方バンタヤン島民族誌』（九州大学出版会、2003）

編著

『現代世界の呪術』（白川千尋・飯田卓と共編著、春風社、2020）

『呪者の肖像』（白川千尋・関一敏と共編著、臨川書店、2019）

『Visayas and Beyond: continuing Studies on Subsistence and Belief in the Islands』Zayas, Kawada, de la Peña eds., University of the Philippines, Diliman, 2014.

『呪術の人類学』（白川千尋と共編著、人文書院、2012）

共著

『〈祈ること〉と〈見ること〉:キリスト教の聖像をめぐる文化人類学と美術史の対話』（喜多崎親編、三元社、2018）

『「人新世」時代の文化人類学』（大村敬一・湖中真哉編、放送大学教育振興会、2020）

翻訳書

『キリスト受難詩と革命』（レイナルド・C・イレート著、宮脇聡史・高野邦夫と共訳、清水展・永野善子監修、法政大学出版会、2005）

［論　　文］「ワンが一番の笑い――奄美の余興笑芸に関する予備的考察――」『日本常民文化紀要』36 輯（成城大学大学院文学研究科）

「島事をプロデュースする―音楽と余興による島おこし―」岩田一正編『「環境資源」に見られるグローカル現象の動態』（私立大学研究ブランディング事業「持続可能な相互包摂型社会の実現に向けた世界的グローカル研究拠点の確立と推進」成果論集）成城大学民俗学研究所／グローカル研究センター

［所 属 学 会］日本文化人類学会、日本民俗学会、現代民俗学会、日本宗教学会

［連　絡　先］kawadamkt[at]seijo.ac.jp

小　島　孝　夫　　教授

［担　　当］日本常民文化研究ＩＡ・ＩＢ

［2023 年 4 月 1 日現在］67 歳

［最 終 学 歴］1983 年　筑波大学大学院修士課程環境科学研究科

［取 得 学 位］1983 年 3 月　修士（学術）

［専 門 分 野］日本民俗学。沿海地域や中山間地域における更新性資源の循環的な利用慣行について研究を行っている。また、それらの資源を利用する主体である地域集団の自治の成り立ちについても、社会関係資本という視点から共有財の利用や管理慣行を題材にして検討を加えている。これらの成果をふまえて、現代社会における集団生成の実相を捉えなおす研究をすすめている。研究対象の特性から、参与観察を多用した

研究手法をとっている。

［著　　書］『海と里』（日本の民俗学１　安室　知・野地恒有との共著）吉川弘文館、2008.

［編著･共編著］『海と島のくらし―沿海諸地域の文化変化―』田中宣一との共編　雄山閣、2002.

『海の民俗文化―漁撈習俗の伝播に関する実証的研究―』編著　明石書店、2005.

『半島のくらし―広域民俗誌の試み―』田中宣一との共編　慶友社、2009.

『クジラと日本人の物語―沿岸捕鯨再考―』編著　東京書店、2009.

『地域社会・地方文化の再編の実態』（グローカル研究叢書 2）編著　成城大学民俗学研究所グローカル研究センター、2010.

『平成の大合併と地域社会のくらし―関係性の民俗学』編著　明石書店、2015.

『地域社会のゆくえ、家族のゆくえ―地域社会の変容に関する実証的研究―』編著　明石書店、2021.

［監　　修］『済州島海女の民族誌―「海畑」という生活世界―』アン・ミジョン著　キム・スンイム訳　アルファベータブックス、2017.

［論　　文］「鳥羽・志摩の海女漁の地域的特質と存立の構造」三重県教育委員会編『平成 24・25 年度海女習俗調査報告書―鳥羽・志摩の海女による素潜り漁―』、2014.

「民具から何を学ぶのか―潜水メガネからみた海女の生活―」『人類学研究所研究論集』第 2 号南山大学人類学研究所、2015.

「市町村合併後の地方自治体再創造にむけて―社会動態と地域社会のくらし―」『グローカル時代に見られる地域社会、文化創造の様相』成城大学グローカル研究センター、2016

「家業としての海女漁」石川県編・発行『平成 26・27 年度　海女習俗調査報告書―輪島における素潜り漁及び関係する習俗―』、2016

「島渡りする海女たち」旅の文化研究所編『生きる』（旅の民俗シリーズ第 1 巻）現代書館、2017.

「地域社会における祭礼の展開―埼玉県北足立郡伊奈町下郷区の春祈祷を事例に―」『日本常民文化紀要』35 輯、2018.

「東京都多摩地域における生活改善諸活動の諸相―立川市砂川の事例を中心に―」日常と文化研究会編・発行『日常と文化』5、2018.

「民具実測図作成の意義と課題」神奈川大学日本常民文化研究所編『民具マンスリー』第 51 巻 12 号

「『あきらめない』という生き方―山梨県南巨摩郡早川町茂倉の総人足の試みをめぐって―」『成城大学民俗学研究所紀要』第 44 集、2020.

［所 属 学 会］日本民俗学会　現代民俗学会

［連　絡　先］kojima[at]seijo.ac.jp

鈴　木　正　信　　准教授

［担　　当］日本古代・中世史

［2023 年 4 月 1 日現在］45 歳

［最 終 学 歴］2008 年 11 月　早稲田大学大学院文学研究科史学（日本史）専攻博士後期課程単位取得退学

［取 得 学 位］2012 年 2 月　博士（文学）（早稲田大学）

［専 門 分 野］『古事記』・『日本書記』などの編纂史料や、神社・寺院に伝来した系図史料を手がかりに、古代の氏族たちが国家形成に果たした役割や、大和王権が列島社会を支配するために施行した諸制度（国造制・屯倉制・部民制）について研究しています。

［著　　書］『日本古代氏族系譜の基礎的研究』（東京堂出版、2012 年）
『大神氏の研究』（雄山閣、2014 年）
『Clans and Religion in Ancient Japan』（Routledge, UK, 2016 年）
『Clans and Genealogy in Ancient Japan』（Routledge, UK, 2017 年）
『日本古代の氏族と系譜伝承』（吉川弘文館、2017 年）
『古代氏族の系図を読み解く』（吉川弘文館、2022 年）
『古代豪族 大神氏』（筑摩書房、2023 年）

［共　編　著］『国造制の研究』（八木書店、2013 年）
『国造制・部民制の研究』（八木書店、2017 年）

［論　　文］「『大神朝臣本系牒略』の史料的性格」（『古文書研究』60、2005 年）
「紀伊国造の系譜とその諸本」（『ヒストリア』210、2008 年）
「甲斐国造の「氏姓」に関する再検討」（『日本史研究』584、2011 年）
「神部直氏の系譜とその形成」（『日本歴史』780、2013 年）
「『円珍俗姓系図』の成立過程と系譜意識」（『古文書研究』80、2015 年）
「『海部氏系図』の成立背景」（『日本歴史』822、2016 年）
「「国造本紀」研究の現状と課題」（工藤浩編『先代旧事本紀論』花鳥社、2019 年）
「武蔵国造の乱と横渟屯倉」（『早稲田大学高等研究所紀要』12、2020 年）
「『紀伊国造次第』再考」（『成城文芸』257、2021 年）
「境部氏と境界画定について」（『成城文芸』260、2022 年）

［所 属 学 会］日本古文書学会、日本歴史学会、木簡学会

［連　絡　先］masanobu-suzuki[at]seijo.ac.jp

外　池　　昇　　教授

［担　　当］日本近世・近代史

［2023 年 4 月 1 日現在］65 歳

［最 終 学 歴］1988 年 3 月　成城大学大学院文学研究科日本常民文化専攻博士課程単位取得修了

［取 得 学 位］1998 年 3 月　博士（文学）（成城大学）

［専 門 分 野］天皇のあり方を歴史学の上から考えるためのひとつの方法として陵墓をめぐる問題を近世史・近代史の視点から考察し、実証的な研究に取り組んでいる。関心は、陵

墓の祭祀・管理から、不明陵の捜索や決定、国家神道や教派神道における天皇・天皇陵の位置等に及ぶ。

［著　　書］単著

『幕末・明治期の陵墓』吉川弘文館、1997

『天皇陵の近代史』吉川弘文館、2000

『事典陵墓参考地―もうひとつの天皇陵―』吉川弘文館、2005

『天皇陵論―聖域か文化財か―』新人物往来社、2007

『天皇陵の誕生』祥伝社新書、2012

『検証天皇陵』山川出版社、2016

『天皇陵―「聖域」の歴史学―』講談社学術文庫、2019（『天皇陵論』に加筆･修正の上、同文庫に収録）

監修

『文久山陵図』新人物往来社、2005

［論　　文］「神武天皇陵御修復と戸田忠至『中元御祝義金三百疋』―『庁攬』文久三年七月条より―」『成城大学共通教育論集』第 7 号、2015

「畝傍橿原教会による『会員募集』」『日本常民文化紀要』第 31 輯、2016

「臨時陵墓調査委員会における長慶天皇陵治定への道程―七点の『答申案』―」『歴史認識のグローカル研究』2016

「長慶天皇陵と『擬陵』―臨時陵墓調査委員会による『調査』『審議』から宮内大臣と総理大臣・枢密院議長の『会見』まで―」『日本常民文化紀要』第 32 輯、2017

「長慶天皇陵の治定と「擬陵」―『臨時陵墓調査委員会録』の検討から―」無窮会『東洋文化』復刊第 114 号（通巻第 348 号）、2017

「白野夏雲の神武天皇陵論―真陵は畝火山全山―」『日本常民文化紀要』第 33 輯、2018

「臨時陵墓調査委員会による長慶天皇陵の『調査』『審議』―第一回・第二回総会より―」『日本常民文化紀要』第 34 輯、2019

「臨時陵墓調査委員会による長慶天皇陵『傳説箇所』の『調査』･『審議』―総会・小委員会の『議事録』『速記録』より―」『日本常民文化紀要』第 35 輯、2020

「陵墓の多面性について」『日本常民文化紀要』第 36 輯、2021

「「神武田」に造営された神武天皇陵をめぐる諸説――大澤清臣『畝傍山東北陵諸説辨』――」『日本常民文化紀要』第 37 輯、2023

［所 属 学 会］歴史学会、多摩地域史研究会、地方史研究協議会

［連　絡　先］toike[at]seijo.ac.jp

俵　木　　悟　　教授

［担　　当］民俗学

［2023 年 4 月 1 日現在］51 歳

［最 終 学 歴］1999 年 3 月　千葉大学大学院博士課程社会文化科学研究科　修了

［取 得 学 位］1999 年 3 月　博士（学術・千葉大学）

［専 門 分 野］民俗学・文化人類学。芸能を中心とする身体表現文化について、身体技法の継承と変容、伝承を支える心意（価値観や審美性など）、伝承組織の再編成など、さまざまな側面から伝承実践（=「伝承する」という行為）を理解するための研究を行っている。また、祭礼・芸能・技術などの伝承を意味づけ／価値づける社会制度としての無形文化遺産保護についての研究も行っている。

［著　　書］単著『文化財／文化遺産としての民俗芸能―無形文化遺産時代の研究と保護―』（勉誠出版、2018）

共著『日本の民俗学 9　祭りの快楽』（古家信平・菊池健策・松尾恒一と共著、吉川弘文館、2009）

編書『民俗小辞典　神事と芸能』（神田より子と共編、吉川弘文館、2010）

『民俗学事典』（民俗学事典編集委員会として、丸善出版、2014）

［主 要 論 文］「伝承の「舞台裏」―神楽の舞の構造に見る、演技を生み出す力とその伝えられ方」飯田卓編『文化遺産と生きる』（臨川書店、2017）

「「正しい神楽」を求めて―備中神楽の内省的な伝承活動に関する考察―」『日本常民文化紀要』33（2018）

「歴史と芸―神楽の過去を発掘する／演じるという歴史実践」 菅豊・北條勝貴編『パブリック・ヒストリー入門―開かれた歴史学への挑戦』（勉誠出版 、2019 年）

「民俗学とデジタル・ヒューマニティーズ 」『日本民俗学』299（2019 年）

「民俗学的芸能研究を開く／拓く」『日本民俗学』300（2019 年）

「地域活性化と民俗学」 小川直之・新谷尚紀編『講座日本民俗学 1：方法と課題』（朝倉書店、2020 年）

「思いをつなぎ、人をつなげる文化遺産：地域遺産の可能性」 清水展・小國和子編『職場・学校で活かす現場グラフィー：ダイバーシティ時代の可能性をひらくために』（明石書店、2021 年）

「一九七〇年の「お祭り」: 日本万国博覧会における祭りの表象」『日本常民文化紀要』36（2021 年）

「津波で失われた浜の古絵図から紡ぎ出された記憶」 標葉隆馬編『災禍をめぐる「記憶」と「語り」』（ナカニシヤ出版、2021 年）

「大里七夕踊と青年団のかかわりの一〇〇年」 牧野修也編『変貌する祭礼と担いのしくみ』（学文社、2021 年）

［所 属 学 会］日本民俗学会、現代民俗学会、日本文化人類学会

［連　絡　先］hyoki[at]seijo.ac.jp

美学・美術史専攻

相　澤　正　彦　　教授

［担　　当］日本美術史

［2023 年 4 月 1 日現在］69 歳

［最 終 学 歴］1982 年早稲田大学大学院文学研究科日本美術史専攻博士課程

［専 門 分 野］日本中世絵画史。とくに室町時代の大和絵と水墨画の両分野を専攻。大和絵では宮廷絵所の土佐派や狩野派をはじめとする諸流派の動向と各々の様式的な変遷を体系的にまとめる作業を進めている。また水墨画ではとくに関東水墨画を課題にし、京都とは異質な風土である関東の文化的特質を分析し、そこから中央画壇を逆に照射することを試みている。

［著　　書］『石山寺縁起絵巻集成』（共著）　2016 年.
『関東水墨画』国書刊行会（共著）2007 年.
『土佐光信』新潮社　1998 年.
『日本美術全集第 9 巻「水墨画とやまと絵」』（共著）小学館　2014 年.
『日本美術全集第 12 巻「水墨画と中世絵巻」』（共著）講談社　1992 年.
『日本美術館』（共著）小学館　1997 年.

［論　　文］「傳土佐光茂筆「車争図屏風」の筆者問題について」『國華 1198』國華社　1995 年.
「狩野元信の鞍馬寺蓋寺縁起絵巻について―新出の毛利家模本に関連して」『神奈川県立博物館研究報告第 26 号』2000 年.
「芸阿弥画本の幻影」『講座日本美術史 2』東京大学出版会　2005 年.
「大原御幸図の源流」『講座日本美術史 3』東京大学出版会　2005 年.
「「破墨山水図」と宗淵」『美術研究 391』東京文化財研究所　2007 年.
「土佐光吉と大画面絵画」『美術研究 323』東京文化財研究所　2008 年.
「室町時代の二つの九相詩図巻」『九相図資料集成』2009 年.
「竹生島祭礼図と狩野派」『日本美術史歴参』2013 年.
「古画備考所載土佐家伝についての覚書」『原本古画備考のネットワーク』2013 年.
「土佐派肖像画の型」『聚美 19』2016 年.

［所 属 学 会］美術史学会

［受賞学術賞］國華賞（第 20 回 2008 年）

［連　絡　先］aizawa[at]seijo.ac.jp

赤　塚　健太郎　　准教授

［担　　当］音楽学

［2023 年 4 月 1 日現在］46 歳

［最 終 学 歴］2008 年　成城大学大学院文学研究科美学・美術史専攻博士課程後期　単位取得退学

［取 得 学 位］博士（文学）（成城大学）

［専 門 分 野］バロック時代の舞踏と舞曲、およびバロック音楽の演奏習慣。舞曲は、バロック音楽において非常に大きな割合を占める存在であるが、その舞曲をどう演奏するかという疑問から研究を始め、徐々に関心を当時の舞踏全般へ、あるいは当時の演奏習慣全般へと広げてきている。

［著　　書］［単著］『踊るバロック　舞曲の様式と演奏をめぐって』アルテスパブリッシング、2021 年。

［共編著］津上英輔・赤塚健太郎共編『新訂　西洋音楽史』放送大学教育振興会、2021 年。

［論　　文］「バロック舞踏におけるフィギュール分析の試み――対称性と平行性に着目して――」,『美学美術史論集』第 22 輯（2020 年）、79-101 頁。

「バロック時代のメヌエットにおける「終止前のヘミオラ」と、ヴァイオリンのフランス風運弓法の関わりについて」『成城美学美術史』第 24 号（2018 年）、17-31 頁。

「バロック時代のメヌエットの舞踏譜に記載された伴奏舞曲について ――ヴァイオリンの運弓法と、伴奏舞曲の出自の問題を踏まえて――」『美学美術史論集』第 21 輯（2017 年）、25-49 頁。

「バロック時代のヴァイオリンの運弓法とメヌエットの舞踏リズムの関係について――ゲオルク・ムッファトの証言を手がかりとして――」『音楽学』第 62 巻 1 号（2016 年）、1-13 頁。

「G. ムッファトの伝えるヴァイオリンの運弓法と当時の舞踏の関わりについて――強拍の提示における緊張と弛緩の過程を手がかりとして――」『成城美学美術史』第 21 号（2015 年）、1-14 頁。

「バロック期の二大手稿舞踏譜集の資料研究――12 の頻出振付の比較を中心に――」『成城文藝』226 号（2014 年）、66-84 頁。

「J. S. バッハのフランス風クーラントと舞踏の関わりについて」『美学美術史論集』第 20 輯（2013 年）、37-66 頁。

「フランス風クーラントの特徴的な拍子構造について――18 世紀前半の舞踏資料に基づく考察――」『音楽学』第 54 巻 1 号（2008 年）、1-14 頁。

「バロック音楽の演奏習慣に、舞踏身体のリズム特性を読む――不等音符奏法の場合」『美学』202 号（2005 年）、69-82 頁。

［所 属 学 会］日本音楽学会、美学会、日本 18 世紀学会、舞踊学会、成城美学美術史学会

［連　絡　先］akatsuka[at]seijo.ac.jp

岩　佐　光　晴　　教授

［担　　当］東洋美術史

［2023 年 4 月 1 日現在］67 歳

［最 終 学 歴］1981 年東北大学大学院文学研究科修士課程

［専 門 分 野］東洋・日本美術史。主となるのは仏教美術史で、特に仏像を中心とする彫刻史を専

門分野とする。最近は木彫像に使用された樹種と用材選択に込められた認識の考察を通して、彫刻史の再構築を試みている。また、平安時代の受領層による造像に関する研究、造像説話の研究、仏師の成立と展開に関する研究も進めている。

［著　　書］『中尊寺と毛越寺』（日本の古寺美術 19）（共著）保育社　1989 年 11 月
『平安時代前期の彫刻　一木彫の展開』（『日本の美術』457 号）至文堂　2004 年 6 月
『法隆寺と奈良の寺院』（日本美術全集 2）（共著）小学館　2012 年 12 月
『牛伏寺誌』（共著）牛伏寺誌刊行会 2013 年 12 月
『仏像の樹種から考える　古代一木彫像の謎』（共著）東京美術　2015 年 12 月
『瑞巌寺五大堂五大明王像』（共著）瑞巌寺　2018 年 3 月
『館林市史　特別編第 7 巻　館林の文化と芸術』（共著）館林市　2021 年 11 月
平成 30（2018）年度～令和 3（2021）年度科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書　『東アジアにける木彫像の樹種と用材観に関する調査研究』（共著）2022 年 7 月

［論　　文］「野中寺弥勒菩薩半跏像について」『東京国立博物館紀要』27 号　1992 年 3 月
「日本古代における木彫像の樹種と用材観 ―七・八世紀を中心に―」（共著）『MUSEUM』555 号　1998 年 8 月
「伝橘夫人念持仏の造像背景」『MUSEUM』565 号　2000 年 4 月
「日本古代における木彫像の樹種と用材観Ⅱ―八・九世紀を中心に―」（共著）『MUSEUM』583 号　2003 年 4 月
「仏師稽文会・稽主勲をめぐって」『日本美術史の杜』竹林舎　2008 年 9 月
「日本古代における木彫像の樹種と用材観Ⅲ―八・九世紀を中心に（補遺）―」（共著）『MUSEUM』625 号　2010 年 4 月
「止利仏師に関する研究史をめぐって」『美學美術史論集』20 輯　2013 年 3 月
「京都・因幡堂薬師如来立像（因幡薬師）の造像背景に関する一考察」『美學美術史論集』21 輯　2017 年 3 月
「クスノキ製木彫像をめぐって」『MUSEUM』679 号　2019 年 4 月
「創建期長谷寺の十一面観音像に関する覚書」『美學美術史論集』22 輯　2020 年 3 月
「千代田の御仏たち―光恩寺と宝林寺の仏像をめぐって―」『群馬文化』第 346 号　2022 年 8 月

［所 属 学 会］美術史学会、成城美学美術史学会

［連　絡　先］iwasa[at]seijo.ac.jp

喜多崎　　親　　教授

［担　　当］西洋美術史

［2023 年 4 月 1 日現在］62 歳

［最 終 学 歴］1988 年　早稲田大学大学院文学研究科博士課程（後期課程）芸術学（美術史）専攻中途退学

［取 得 学 位］2010 年 2 月　博士（文学・早稲田大学）

［専 門 分 野］19 世紀フランス美術史。美術作品は社会的構築物であるという立場から、作品の制作状況・同時代に於ける受容などを、当時の視覚資料、批評などの分析を通じて解明してきた。最近 19 世紀の宗教画に関する研究を纏めたので、象徴主義の研究に移行しつつある。

［著　　書］『甦る竪琴――ギュスターヴ・モロー作品における詩人イメージの変遷』（単著、羽鳥書店、2021 年）

『聖性の転位――一九世紀フランスに於ける宗教画の変貌』三元社、2011 年

『岩波 西洋美術用語辞典』（共編著）岩波書店、2005 年

『西洋近代の都市と芸術 2　パリ Ⅰ　19 世紀の首都』（編）竹林舎、2014 年

『西洋近代の都市と芸術 3　パリ Ⅱ　近代の相克』（共著）竹林舎、2015 年

『ヴィジョンとファンタジー』（共著）ありな書房、2016 年

『怪異を語る――伝統と創作のあいだで』（編）三元社、2017 年

『前ラファエッロ主義――過去による 19 世紀絵画の革新』（編）三元社、2018 年

『〈祈ること〉と〈見ること〉――キリスト教の聖像をめぐる文化人類学と美術史の対話』（編）三元社、2018 年

［論　　文］「ギュスターヴ・モローの《出現》に就いて」『美術史』133、1993 年 2 月

「パリのサン＝ロック聖堂洗礼盤礼拝堂壁画に就いて――テオドール・シャセリオーの宗教画にみるオリエンタリズム」『美術史研究』32、1994 年 12 月

「見せられる裸婦と風景――ギュスターヴ・クールベの眠れる裸婦に見る眼差しの換喩」『国立西洋美術館研究紀要』2、1998 年 3 月

「聖性と写実――ボナの《キリスト》と階級的身体イメージ」『美學』197、1999 年 6 月

「パリに顕れるビザンティン――サン＝ヴァンサン＝ド＝ポール聖堂の様式選択」『国立西洋美術館研究紀要』5、2002 年 3 月

「流動するファサード――モネの《ルーアン大聖堂》連作に見る同一性と差異性」『美術フォーラム 21』7、2003 年 1 月

「モザイクとしての様式――ドニの点描をめぐる一考察」『国立西洋美術館研究紀要』11、2007 年 3 月

「聖化する未熟――十九世紀フランスに於けるフラ・アンジェリコ受容」『言語社会』4、2010 年 3 月

「コレスポンダンスの核――ルドンの《目を閉じて》に見る象徴主義」『成城文藝』219、2012 年 6 月

「ミュシャのレトリック」『成城美学美術史』2018 年

［所 属 学 会］美術史学会、美学会、日仏美術学会、ジャポニスム学会、早稲田大学美術史学会

［連　絡　先］kitazaki[at]seijo.ac.jp

高　橋　健　一　　教授

［担　　当］西洋美術史

［2023 年 4 月 1 日現在］48 歳

［最 終 学 歴］2003 年　東北大学大学院文学研究科博士課程後期　歴史科学専攻（美学・西洋美術史）中途退学

［取 得 学 位］2021 年 3 月　博士（文学・東北大学）

［専 門 分 野］17－18 世紀イタリア美術史。カラッチ一族に始まるボローニャ派について、特に文学との関係に注目して研究している。また、同派の受容、あるいはヨーロッパの美術と文化における規範性について、視覚作品、美術批評、歴史叙述、文学作品を通して考察している。さらに、イタリアの美術と文化における〈イタリア性〉の自覚の問題に取り組んでいる。近年にはこれらの観点から、1690 年のローマに結成された文学アカデミー、アルカディア会の活動と影響について調査、研究し、思索を深めている。

［著　　書］『原典イタリア・ルネサンス芸術論』池上俊一監修、名古屋大学出版会、2021 年（共訳）。

ジョルジョ・ヴァザーリ『美術家列伝』中央公論美術出版、第 3 巻、2015 年；第 5 巻、2017 年；第 2 巻、2020 年（共訳）。

Giovanni Luigi Valesio: ritratto de «l'Instabile academico incaminato», Bologna, Cooperativa Libraria Universitaria Editrice Bologna（Clueb）, 2007.

［論　　文］「アルカディアのアトリエ――カルロ・マラッティ晩年の自己表象とその環境――」『成城美学美術史』第 27 号、2021 年、39-67 頁。

Il cannocchiale in Arcadia. Nuove proposte per le Osservazioni astronomiche *di Donato Creti*, «Zeitschrift für Kunstgeschichte», 82, 2019, pp. 179-196.

Una costellazione in Arcadia. Le illustrazioni dei libri di Pier Jacopo Martello, «Paratesto», 14, 2017, pp. 47-69.

Pindaro in Arcadia. Pier Jacopo Martello e Vittorio Maria Bigari nella galleria di Palazzo Ranuzzi in Bologna, «Atti e memorie dell'Arcadia», 5, 2016, pp. 233-270.

Guido Reni in Arcadia. La poetica dello sguardo di P. J. Martello, «Intersezioni. Rivista di storia delle idee», 35, 2015, 3, pp. 355-374.

「アルカディアのポルティコ――ピエル・ヤコポ・マルテッロの理想都市『ポエジロゴポリ』とイタリアの文芸共和国――」『美術史学』第 36 号、2015 年、23－46 頁。

Da Tommaso Laureti a Caravaggio: un'osservazione, «Artes», 15, 2010-2014, pp. 153-168.

「リッポ・ディ・ダルマジオからグイド・レーニへ――カルロ・チェーザレ・マルヴァジアの美術史叙述におけるひとつの系譜とその形成のための要因――」『美学』第 240 号、2012 年、61－72 頁。

Gli apparati per l'ingresso a Bologna di Clemente VIII nel 1598, in Marcello

Fagiolo (ed.), *Le capitali della festa: Italia centrale e meridionale*, Roma, De Luca Editori d'Arte, 2007, pp. 27-29.

「『小説のように見えるが、すべて真実であるだろう』：カルロ・チェーザレ・マルヴァジアの美術史叙述についての覚え書き」『西洋美術研究』第 13 号、2007 年、44－72 頁。

Le prime edizioni e rappresentazioni del Filarmindo *di Ridolfo Campeggi e il ruolo di Giovanni Luigi Valesio*, «L'Archiginnasio», 96, 2001, pp. 43-79.

［所 属 学 会］美術史学会、美学会

［連　絡　先］takahashik[at]seijo.ac.jp

津　上　英　輔　　教授

［担　　当］美学

［2023 年 4 月 1 日現在］67 歳

［最 終 学 歴］1987 年　東京大学大学院人文科学研究科美学芸術学専攻博士課程

［取 得 学 位］1992 年 1 月　博士（文学）

［専 門 分 野］西洋の美学思想史を専門としている。時代としては古代、フィールドとしては音楽、方法としては文献解釈に重心がある。プラトーン、アリストテレースらの美や芸術についての思想を主に研究しているが、ルネサンス、18 世紀にも興味を持っている。また、最近は美学の現代社会への適用の問題を考えている。

［著　　書］『美学の練習』（2022 年，春秋社）

Girolamo Mei: A Belated Humanist and Premature Aesthetician（勁草書房、2021）

『危険な「美学」』（インターナショナル新書、2019）

『メーイのアリストテレース『詩学』解釈とオペラの誕生』（勁草書房、2015）

『あじわいの構造：感性化時代の美学』（春秋社、2010）.

［編　　書］*Girolamo Mei, De modis*（勁草書房、1991）.

［論　　文］「記述理論から規範美学へ：メーイの旋法体系と古代音楽像」『美学』2016.

「“ 哲学と文献学の新たな仲違い ”：プラトーンの詩人論を解釈するコリンウッド」『成城美学美術史』2012.

「感性的営為としての旅：観光美学の構築に向けて」『美学』2008.

「対位法史の中のジローラモ・メーイ」東川清一編『対位法の変動・新音楽の胎動』（春秋社，2008）.

「過去の現前：感性的範疇としての nostalgia」『美学』2005.

'Aristoteles Musicus: Causality and Teleology in Johannes de Grocheio's *Ars musicae*,' *JTLA*, 2001.

「『この人はあの人だ』（アリストテレース『詩学』第 4 章）：現実開示の途としてのミーメーシス」『美学美術史論集』1997.

「諸天体の構造的協和：プトレマイオスの宇宙調和論」今道友信編『精神と音楽の交響』（音楽之友社、1997）.

'Influence of Aristotle's *De anima* on European Musical Sensitivity,' *Revista de musicología,* 1993.
「ジローラモ・メイ『古代旋法論』：バロック音楽様式の成立に対するその意味」『美学』1987.

［翻　　訳］グラウト・パリスカ『新西洋音楽史』（全３巻、共訳、音楽之友社、1998-2001）.
［所 属 学 会］美学会、日本音楽学会、日本西洋古典学会、International Association for Aesthetics.
［連　絡　先］tsugami[at]seijo.ac.jp

山　下　純　照　　教授

［担　　当］演劇学
［2023 年 4 月 1 日現在］63 歳
［最 終 学 歴］1991 年　大阪大学大学院 文学研究科（芸術学専攻 演劇学研究分野）博士課程後期単位取得退学
［取 得 学 位］文学修士
［専 門 分 野］近現代演劇の作品研究、および二十世紀演劇の理論。「記憶」を焦点とする演劇ナラトロジーの構築にとりかかっている。
［論　　文］「劇における narrative の２重性・演示と〈語り〉・信頼できない語り（手）――岩井秀人『ある女』を例として――」（『成城文藝』（257）、2021 年 12 月、(35)106-(73)68 頁）
「壊れていくクラインの壺―岩井秀人『おとこたち』にみる「舞台の語り」」（『美学美術史論集』第 22 輯、2020 年、25-42 頁）
「「もどき」の概念の現代演劇への適用可能性―タールハイマー演出『エミーリア・ガロッティ』を中心に―」（『成城美学美術史』第 23 号、2017 年、15-32 頁）
"Das Fastnachtspiel von „Rumpold und Mareth" als verdecktes Modell für das Lustspiel *Der zerbrochene Krug* von Heinrich von Kleist." In: *Aesthetics and Art History, Memorial Issue for Professor Dr. Yoshitake Kobayashi*, Graduate School for Literature, Seijo University, No.20, March 21, 2013, pp.181-202.
「記憶の演劇の概念について（1）：野田秀樹『ザ・キャラクター』（2010）における社会的記憶」（『成城文藝』（215）、2011 年 6 月、85-60 頁）
「野田秀樹の『ザ・ダイバー』における「演劇の修辞学」――能『海士』との関係性――」（大阪大学演劇学研究室編『演劇学論叢』第 11 号、2010 年 3 月、56-70 頁）
„Die Theaterkompanie Ku Na'uka und die Imago der Überfrau" In: Hirata Eiichiro und Hans-Thies Lehmann（Hrsg.）: *Theater in Japan*. Berlin: Theater der Zeit, 2009, S. 120-131.
「ジョージ・タボリ『記念日』の創作過程にみるユダヤ的アイデンティティーの構築――最終場の決定と解釈をめぐって――」（日本演劇学会編『演劇学論集』紀要 45、2007 年 11 月、73-94 頁）
「記憶のドラマトゥルギー――宮本研『ザ・パイロット』から井上ひさし『闇に咲

く花』へ ――（大阪大学演劇学研究室編『演劇学論叢』第 7 号、2004 年 12 月、52-67 頁）
「記憶としての演劇」（大阪大学大学院文学研究科演劇学研究室編『演劇学論叢』）第 3 号、2000 年 12 月、66-90 頁）
「上演はいかに想起されるか」（西洋比較演劇研究会編『演劇論の現在』、白凰社、1999 年 6 月、9-25 頁）
［編　　著］『西洋演劇論アンソロジー』（西洋比較演劇研究会と共編著、月曜社、2019 年）
［翻　　訳］フィッシャー＝リヒテ『演劇学へのいざない』（石田雄一、高橋慎也、新沼智之と共訳、国書刊行会、2013 年）
クライスト『こわれがめ』（みすず書房、2013 年）
バーム「舞台を代替する――演劇とニュー・メディア――」（毛利三彌編『演劇論の変貌』論創社、2007 年所収）
［所 属 学 会］日本演劇学会、美学会、日本独文学会、西洋比較演劇研究会
［連　絡　先］y3yamash[at]seijo.ac.jp

コミュニケーション学専攻

渋　谷　明　子　　教授

［担　　当］マスコミュニケーション学
［2023 年 4 月 1 日現在］61 歳
［最 終 学 歴］2004 年 3 月　慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了（単位取得満期退学）
［取 得 学 位］2010 年 2 月　慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻論文博士（社会学）
［専 門 分 野］メディア心理学／社会心理学
［著　　書］『メディアと人間の発達――テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響』（共著）（2003 年）学文社.
『テレビニュースの世界像――外国関連報道が構築するリアリティ』（共著）（2007 年）勁草書房.
『メディアとパーソナリティー』（共著）（2011 年）ナカニシヤ出版.
『テレビという記憶――テレビ視聴の社会史』（共著）（2013 年）新曜社.
『ヒューマニティーズの復興をめざして――人間学への招待』（共著）（2018 年）勁草書房.
『メディアオーディエンスの社会心理学 改訂版』（共編著）（2021 年）新曜社.
『クリティカル・オーディエンス――メディア批判の社会心理学』（共著）（2023 年）新曜社 .
［論　　文］“The effects of the presence and contexts of video game violence on children: A longitudinal study in Japan,” December, 2008, *Simulation & Gaming*, Vol. 39, No. 4,

528-539.

“Violent video game effects on aggression, empathy, and prosocial behavior in eastern and western countries: A meta-analytic review, ”March 2010, *Psychological Bulletin*, Journal of American Psychological Association, Vol. 136, No. 2, 151-173.

「北京五輪のオモテとウラ―テレビ報道で提供された中国イメージとその記憶」、2010 年 3 月、『メディア・コミュニケーション（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要）』、60 号、89-106.

「子どものテレビゲーム接触への保護者の指導方法と効果――小学校高学年児童と保護者を対象にしたパネル研究の分析から」、2010 年 12 月、『シミュレーション＆ゲーミング』、20 巻 2 号、47-57.

「メディア接触と異文化経験と外国・外国人イメージ――ウェブ・モニター調査（2010 年 2 月）の報告（2）」、2011 年 3 月、『メディア・コミュニケーション（慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所紀要）』、61 号、103-125.

「テレビゲームの暴力シーンの影響を左右する視点の調整効果――小学校高学年児童を対象にしたパネル研究の検討」、2011 年 3 月、『デジタルゲーム学研究』、5 巻 1 号、1-12.

「メディア表現の影響に関する学術的検討――心理学的検討と問題となる表現を中心に」、2012 年 12 月、『シミュレーション＆ゲーミング』、22 巻 1 号、85-98.

“Toward individualistic cooperative play: A systematic analysis of mobile social games in Japan,”, July, 2016, *Mobile gaming in Asia, politics, culture and emerging technologies*, 207-225, Springer.

“In-game purchases and event features of mobile social games in Japan,” January, 2017, *Transnational contexts of development history, sociality, and society of play: Video games in East Asia*, 95-122, palgrave macmillan & Springer.

“Long-term effects of in-game purchases and event game mechanics on young mobile social game players in Japan,” February, 2019, *Simulation & Gaming*, Vol. 50, No. 1, 76-92.

［所 属 学 会］日本社会心理学会、日本メディア学会、日本心理学会、International Communication Association、日本シミュレーション＆ゲーミング学会、日本デジタルゲーム学会

［連　絡　先］ashibuya[at]seijo.ac.jp

新　倉　貴　仁　　准教授

［担　　当］マスコミュニケーション学

［2023 年 4 月 1 日現在］44 歳

［最 終 学 歴］2011 年　東京大学大学院情報学環・学際情報学府社会情報学コース博士課程

［取 得 学 位］2014 年　博士（社会情報学・東京大学）

［専 門 分 野］文化社会学、歴史社会学、メディア論。ナショナリズムの理論的研究を踏まえ、第

一次大戦後から高度成長期にかけての日本社会の変容を、大量生産技術の普及やミドルクラスの拡大との関わりから研究している。現在の主な問題関心として、日本社会における大量生産技術の導入と大衆社会 mass society の成立についての研究、また、消費社会化・情報社会化する現代社会における人びとの生の様態の研究にとりくんでいる。

［著　　書］『「能率」の共同体――近代日本のミドルクラスとナショナリズム』岩波書店、2017.

［論　　文］「海賊版としてのナショナリズム――ナショナリズムとメディアをめぐる理論的視座の構築」『マス・コミュニケーション研究』第 73 号、2008.

「ナショナリズム研究における構築主義――ベネディクト・アンダーソンの知と死」『社会学評論』第 59 巻 3 号、2008.

「存在拘束性のナショナリズム――丸山眞男と知識社会学」『相関社会科学』第 18 号、2009.

「戦後日本の知識人と語りの構造――藤田省三におけるレトリックと読むことについて」『年報社会学論集』第 24 号、2011.

「中間の思考――文化社会学の学説史的考察」吉見俊哉編『文化社会学の条件』、日本図書センター、2014.

「戦後社会とオートメーション――工業化社会から消費社会への変容の技術的条件」『マス・コミュニケーション研究』第 86 号、2015.

「都市とスポーツ――皇居ランの生 - 政治」『iichiko』第 126 号，2015.

「吉本隆明――個人と共同体のあいだ」大井赤亥・大園誠・神子島健・和田悠編『戦後思想の再審判――丸山眞男から柄谷行人まで』法律文化社，2015.

「「メディア論」再考――マクルーハンにおける産業社会とナショナリズムをめぐって」『コミュニケーション紀要』第 27 輯，2016.

「「想像の共同体」を越えて」『思想』第 1108 号、2016.

［所 属 学 会］日本社会学会、日本マス・コミュニケーション学会、関東社会学会

［連　絡　先］niikura[at]seijo.ac.jp

牧　野　圭　子　　教授

［担　　当］マスコミュニケーション学

［2023 年 4 月 1 日現在］56 歳

［最 終 学 歴］1995 年　京都大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程

［取 得 学 位］2002 年　京都大学　博士（経済学）

［専 門 分 野］消費者行動を通じて見えてくる、人間心理の基本的側面について学際的に検討している。特に、快楽消費の問題や、消費者の美意識の問題に関心がある。

［著　　書］『「快楽消費」の追究』　白桃書房　2001.

『〈快楽消費〉する社会』　中央公論新社　2004.

『消費の美学』　勁草書房　2015.

『日常生活の中の趣』 晃洋書房　2019.
『情景と詩的哀感』 晃洋書房　2022.

［論　　文］“A New Perspective on Hedonic Consumption,” European Advances in Consumer Research, Volume 6, 2003.
「浮世絵を生かしたまちづくり―小布施町の北斎と墨田区の北斎―」『成城大学　経済研究所年報』20 号、2007.
「消費者のノスタルジア―研究の動向と今後の課題―」『成城文藝』第 201 号 2007.
「消費の美的側面を伝える媒体としての広告」『日経広告研究所報』251 号、2010.
「震災後の日本観光に関する感性論的考察―浅草三社祭の事例―」『成城文藝』第 216 号、2011.
“New Notion of Nostalgia,” Paper presented at poster session, ACR（Association for Consumer Research）Advances in Consumer Research, Vol. 40, 2012.
「ロックウェルが描いた非商業主義的な商業空間：『サタデー・イブニング・ポスト』誌表紙の検討」『成城文藝』（成城大学文芸学部紀要），第 224 号，2013.
「趣があるという感じ方―心理的時間の観点から―」『成城文藝』第 235 号、2016.
“An Empirical Research Framework for the Aesthetic Appreciation of the Urban Environment,” City, Culture and Society, Vol. 13, 2018.
「自伝的記憶の美化に関する理論的説明の試み―なつかしい思い出はなぜ美的に感じられやすいのか―」『心理学評論』64(1)，2021.

［所 属 学 会］日本消費者行動研究学会、日本広告学会、日本社会心理学会、日本心理学会、美学会、美術史学会

南　　保　輔　　教授

［担　　当］コミュニケーション論
［2023 年 4 月 1 日現在］64 歳
［最 終 学 歴］1993 年　カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院社会学部
［取 得 学 位］1993 年 9 月　Ph. D. in Sociology & Cognitive Science（カリフォルニア大学サンディエゴ校）
［専 門 分 野］社会生活にコミュニケーション論の視角からアプローチしている。エスノメソドロジー・会話分析を基盤とするインタラクション分析とゴフマン社会学を、AV 機器を活用して進めている。「いまここ」と参与者のライフヒストリーとを二大分析焦点とする。薬物依存者リハビリテーション施設ダルクと視覚障害者の歩行訓練を主要な調査フィールドとしている。社会化や文化とコミュニケーションの関係、異文化間コミュケーション、レイベリング論をはじめとする逸脱行動論、アイデンティティ論（自己や情緒）や日本文化論にも興味がある。帰国子女、ロボット研究室、少年院などでの矯正教育、パーティリハーサル、映像作品視聴なども調査してきた。
［著　　書］『海外帰国子女のアイデンティティ：生活経験と通文化的人間形成』（東信堂、2000）.

［編　　著］『ダルクの日々：薬物依存者たちの生活と人生』（知玄舎、2013）.
『当事者が支援する：薬物依存からの回復　ダルクの日々パート 2』（春風社、2018）.
［翻　　訳］ジェイ・マクラウド著『ぼくにだってできるさ：アメリカ低収入地区の社会不平等の再生産』（北大路書房、2007）.
［論　　文］「フィールドに参与することとフィールドを読むこと：フィールドリサーチは（フィールドでの）選択の積み重ねだ」石黒広昭編『AV 機器をもってフィールドへ：保育・教育・社会的実践の理解と研究のために』（新曜社、2001）.
“Identity and social structure: Two socialization practices in Japanese schools.”『成城文藝』第 189 号.（成城大学文芸学部、2005）.
「徹子が黙ったとき：テレビトーク番組の相互作用分析」『コミュニケーション紀要』第 20 輯.（成城大学大学院文学研究科、2008）.
「社会調査とエスノメソドロジー」串田秀也；好井裕明編『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』（世界思想社、2010）.
「成績評価における相互作用：「変わった」確認ワークの分析から」広田照幸他編『現代日本の少年院教育：質的調査を通して』（名古屋大学出版会、2012）.
「パーティリハーサルのミクロエスノグラフィ：ディレクタのワークに照準して」『コミュニケーション紀要』第 24 輯（成城大学文学研究科、2013）.
「引用発話・再演・リハーサル：フレームの複合性と経験の自在性」中河伸俊；渡辺克典編『触発するゴフマン：やりとりの秩序の社会学』（新曜社、2015）.
「やめる」と言える自分をつくる：「矯正教育プログラム（薬物非行）」の質的分析(2)」『コミュニケーション紀要』第 27 輯.（成城大学大学院文学研究科、2016）.
「デモ開発プロジェクトを立ち上げることと運営すること：ロボットラボにおける意思決定とリーダーシップ」水川喜文他編『ワークプレイス・スタディーズ：はたらくことのエスノメソドロジー』（ハーベスト社、2017）.
「ことば遊び表現のある映像作品の評価：相互作用における「わかる」のコミュニケーション論的研究」『コミュニケーション紀要』第 31 輯（成城大学大学院文学研究科、2020）.
［所 属 学 会］日本社会学会　日本認知科学会　社会言語科学会
アメリカ社会学会　EMCA 研究会　日本犯罪社会学会
［連　絡　先］yminami[at]seijo.ac.jp

森　　暢　平　　教授

［担　　当］ジャーナリズム論
［2023 年 4 月 1 日現在］58 歳
［最 終 学 歴］2000 年　国際大学大学院国際関係学研究科修士課程
［取 得 学 位］博士（文学）日本大学
［専 門 分 野］ジャーナリズム・マスメディアと社会との関係を研究している。これまでの研究

は、皇室報道を題材にした皇室と社会の変容の相互関係、記者クラブ問題をめぐるジャーナリストの倫理問題、ジャーナリズム教育をめぐる諸問題である。また、地域メディア、臨時災害放送局を通じたパブリック･ジャーナリズムについて実証的･理論的探究を行っている。

［著　　書］『天皇家の財布』（新潮社、2003）
『「昭和天皇実録」講義』（古川隆久、茶谷誠一と共編著、吉川弘文館、2015）
『皇后四代の歴史――昭憲皇太后から美智子皇后まで』（河西秀哉と共編著、吉川弘文館、2018）
『〈地域〉から見える天皇制』（河西秀哉、瀬畑源と共編著、吉田書店、2019）
『近代皇室の社会史』（吉川弘文館、2020）
『天皇家の恋愛』（中央公論新社、2022）

［論　　文］「戦前日本の記者クラブ――その歴史と構造」1～8『朝日総研リポート』211～218号（2007～2008）
「皇居開放と再建――「国民」と天皇の関係をめぐって」上・下『成城文藝』213号（2010年）
「敗戦直後のジャーナリスト教育導入――占領当局･大学･新聞社の関係をめぐって」『マス・コミュニケーション研究』81号（2012）
「ミッチー･ブーム、その後」河西秀哉編『戦後史のなかの象徴天皇制』（吉田書店、2013）
「二層性のなかの記者クラブ」樺島栄一郎編『メディア・コンテンツ産業のコミュニケーション研究』（ミネルヴァ書房、2015）
「臨時災害放送局聴取者調査を通じた被災地教育の実践」『成城学園教育研究所研究年報』36集（2015）
「大正期における女性皇族像の転換――良子女王をめぐる検討」『成城文藝』236号（2016）
「被災地におけるフィールドワークの試み」『成城学園教育研究所研究年報』37集（2016）
「メディア天皇制論――「『物語』としての皇室報道」吉田裕・瀬畑源・河西秀哉編『平成の天皇制とは何か』（岩波書店、2017）
「近代皇室における「乳人」の選定過程と変容」『史林』102巻2号（2019）

［所 属 学 会］日本マス・コミュニケーション学会、メディア史研究会、日本史研究会
［連　絡　先］ymori[at]seijo.ac.jp

山　内　香　奈　　准教授

［担　　当］コミュニケーション学
［2023年4月1日現在］51歳
［最 終 学 歴］東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻教育心理学コース博士課程
［取 得 学 位］東京大学　博士（教育学）

［専 門 分 野］心理測定･評価、社会心理学。対話型や物語型のコミュニケーション、説得的コミュニケーションを通じた人々の態度・行動変容を促す情報環境デザインについて学際的に検討している。また、新規技術などに伴うリスクに対する市民の社会的受容のメカニズムの解明や、それに基づく市民への啓発に関心がある。社会心理学研究の再現可能性、信頼性の問題についても実証的検討を行っている。

［著　　書］「鉄道会社の異常時放送の改善に向けたアクションリサーチ」風間書房（2022）
「社会心理学研究におけるサンプルサイズ設計」村井潤一郎・橋本貴充（編）「心理学のためのサンプルサイズ設計」（第 6 章担当）講談社（2017）

［論　　文］「多相 Rasch モデルによる論文評定データの解析」『計量国語学』第 22 巻（1999）
「論文評定データの解析における多相 Rasch モデルと分散分析モデルの比較」『教育心理学研究』47 巻（1999）
「鉄道における迷惑行為に対する利用者の認知および行動の分析」山内香奈・藤浪浩平・鈴木浩明・中谷恭介・中川剛志『鉄道総研報告』第 18 巻（2004）
「旅客の駆け込み乗車行動の実態とその意識に関する分析」山内香奈・藤浪浩平・鈴木浩明・青木俊幸・山本昌和『鉄道総研報告』第 20 巻（2006）
「鉄道利用者のダイヤ乱れ遭遇時における不満足の規定要因」『心理学研究』83 巻（2012）
“Development and Evaluation of Evidence-based Training Material for Promoting the Recommended Behavior in Railway Employees”, Educational Technology Research, Vol. 36, 2013.
「鉄道従業員向けアナウンス研修の転移促進手法に関する実験的検討」山内香奈・菊地史倫『教育心理学研究』64 巻（2016）
「鉄道従業員の案内業務の適応的熟達を促す訓練手法の開発」山内香奈・菊地史倫『日本教育工学論文誌』40(Suppl.)（2017）
「長時間停車時の乗客心理に関する基礎的検討」山内香奈・鈴木大輔・斎藤綾乃・菊地史倫『鉄道総研報告』34 号（2020）
「『教育心理学研究』における統計改革の現状―サンプルサイズ設計を中心に―」『教育心理学年報』第 68 集（印刷中）

［所 属 学 会］日本心理学会、日本教育心理学会、日本社会心理学会、日本教育工学会、日本行動計量学会、日本グループ・ダイナミックス学会、日本応用心理学会

［連　絡　先］yamauchi[at]seijo.ac.jp

ヨーロッパ文化専攻

高　名　康　文　　教授

［担　　当］歴史言語学

［2023 年 4 月 1 日現在］53 歳

［最 終 学 歴］1995 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了

［専 門 分 野］仏語、仏文学。文学研究においては、『狐物語』と同物語の 13 世紀における模倣作を中心に、同時代文学作品（武勲詩、騎士道物語）のパロディー、都市の成立にあたっての中世人の心性の変化という観点から研究している。また、『狐物語』の写本と校訂本を検討して、同物語の成立事情についての文献学的考察を行っている。

［著　　書］*Les Études françaises au Japon. Tradition et renouveau*, Presses Universitaires de Louvain, 2010.（共著）

［翻　　訳］N・ラベール＆ B・セール『100 語でわかる西欧中世』白水社，2014 年

［論　　文］La Parodie dans le *Roman de Renart* – Une étude de la parodie renardienne des romans d'amour des XIIe et XIIIe siècles dans une perspective comparative et diachronique,『福岡大学人文論叢』31-2, 3, 4, 32-1, 1999-2000.

La Parodie des chansons de geste dans le *Roman de Renart, Reinardus*, 14, 2001.

Prolifération au cours de la tradition manuscrite des mentions de l'adultère dans les premières branches du *Roman de Renart*,『仏語仏文学研究』82, 2003.

「フランスのコレージュ教科書と中世文学：『狐物語』の学習によるジャンル概念の形成 」『成城文藝』221，2012.

「『狐物語』B 写本第 5921-22 行を巡る新旧校訂の比較」『ヨーロッパ文化研究』34，2015.

「ルナールと托鉢修道会：リュトブフ、『ルナールの戴冠』、『新版ルナール』」『西洋中世研究』8，2016.

「リュトブフの仮構された「私」によるパリ」『仏語仏文学研究』49，2016.

「『ロランの歌』における「誠実」と「不誠実」」『聖と俗の foi & triuwe―中世の宮廷文学における「誠実」・「忠誠」・「信心」―』（日本独文学会研究叢書 127），2017.

「『マントのレー』における「誠実」という語の使用例：「大切なこと」は言葉で語られるのか？」『ヨーロッパ文化研究』37，2018.

「『新版ルナール』と『アーサー王の死』における運命の女神」『ヨーロッパ文化研究』38，2019.

「ファブリオーにおける貨幣」『西洋中世研究』13，2021.

［所 属 学 会］日本フランス語フランス文学会、国際中世叙事詩学会、国際アーサー王学会、西洋中世学会、日本フランス語教育学会

［連　絡　先］takana[at]seijo.ac.jp

村　瀬　　鋼　　教授

［担　　当］フランス思想

［2023 年 4 月 1 日現在］58 歳

［最 終 学 歴］1995 年　東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程

［取 得 学 位］1995 年 3 月　博士（文学・東京大学）

［専 門 分 野］フランス哲学と現象学．広くは、〈私〉の経験世界の基本的な成立ちの包括的把握

が課題．身体、知覚、表現、他者、時間、環境、風景等の主題に関して、メルロ＝ポンティ哲学を出発点に、フランスの諸哲学（デカルト、メーヌ・ド・ビラン、ルキエ、レヴィナス、ドゥルーズ、デリダ等の）を解釈しつつ、考察している。

［著　　書］『私というものの成立』（共著）勁草書房　1994 年.
『哲学という地図』（共編著）勁草書房　2010 年.
『哲学への誘いⅡ　哲学の振る舞い』（共編著）東信堂　2010 年.

［論　　文］「風景の私性――現在としての私」『福岡大学人文論叢』第 32 巻第 1 号　2000 年.
「ルキエと開始の思考」『はじまり』（哲学雑誌第 116 巻第 788 号）有斐閣　2001 年.
「抵抗の異質性――メーヌ・ド・ビランの「抵抗」概念の可能性」『フランス哲学・思想研究』第 7 号　2002 年.
「風景の教え――環境の思考の原風景――」『成城文藝』第 192 号　2005 年.
「分離と接触―レヴィナスと身体的主体―」『レヴィナスと実存思想』（実存思想協会編実存思想論集ＸＸⅡ）理想社　2007 年.
「隔たりと力――メルロ＝ポンティとアンリとの間のキアスム」『ミシェル・アンリ研究』2 号　2012 年.
「メルロ＝ポンティとレヴィナス――身体を考える二つの仕方」『メルロ＝ポンティ研究』17 号　2013 年.
«Lequier et la recherche d'un commencement», in *Jules Lequier, Une philosophie de la liberté*, Les Perséides, 2016.
「愛するということ――恋愛試論――」『ひとおもい２』東信堂　2020 年.
「ルキエにおけるスピノザの影――ルヌヴィエを媒介に」上野修・杉山直樹・村松正隆編『スピノザと十九世紀フランス』岩波書店　2021 年.

［所 属 学 会］日本哲学会、哲学会、日仏哲学会、日本現象学会、実存思想協会、メルロ＝ポンティ・サークル、日本ミシェル・アンリ哲学会

［連　絡　先］murasek[at]seijo.ac.jp

中　野　智　世　　教授

［担　　当］ドイツ近現代史

［2023 年 4 月 1 日現在］58 歳

［最 終 学 歴］ダルムシュタット工科大学歴史社会学科博士課程

［最 終 学 位］Dr. Phil.（ダルムシュタット工科大学）

［専 門 分 野］ドイツ近現代史。福祉、ジェンダー、宗教などをテーマとする社会史研究。

［著　　書］*Familienfürsorge in der Weimarer Republik. Das Beispiel Düsseldorf,* Droste Verlag 2008.

［共編書　等］『カトリシズムと生活世界――信仰の近代ヨーロッパ史』（前田更子氏ほかとの共編著）勁草書房、2023 年
『価値を否定された人々―ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」』（共著）新評論、2021 年.

『ケアが生まれる場―他者とともに生きる社会のために』（共著）ナカニシヤ出版、2019 年.
『近代ヨーロッパとキリスト教―カトリシズムの社会史』（共編著）勁草書房、2016 年.
『歴史のなかの社会国家』（共著）山川出版社、2016 年.
『保護と遺棄の子ども史』（共著）昭和堂、2014 年.
『歴史のなかの障害者』（共著）法政大学出版局、2014 年.
『近代ヨーロッパの探求⑮ 福祉』（共編著）ミネルヴァ書房、2012 年.
『ドイツ近現代ジェンダー史入門』青木書店、2009 年
『生命というリスク――20 世紀社会の再生産戦略』法政大学出版会、2008 年

［論　　文］「慈善と科学のあいだで――近代ドイツの障害者保護」『歴史学研究』1007 号、2021 年
「近代ドイツにおける障害当事者運動の理念と活動―『身体障害者自助促進連盟（1919-1945）』を例として」『障害学研究』16 号、2020 年.
「ナチ体制下のドイツにおけるカトリック・カリタス―共存と抵抗のあいだで」『ヨーロッパ文化研究』第 38 集、2019 年.
「『瓦礫の社会』と宗教的セーフティネット―占領下ドイツ（1945-1949）におけるカトリック・カリタスの救援活動」『ヨーロッパ文化研究』第 36 集、2017 年.
「近現代ドイツにおける福祉事業」『歴史と地理』671 号、2014 年
「ヨーロッパ近代のなかのカトリシズム――宗教を通して見るもうひとつの『近代』」『西洋史学』252 号、2014 年
「西欧福祉国家と宗教――歴史研究における新たな分析視角をめぐって」『ゲシヒテ』5 号、2012 年
「福祉の現場における家族―1920 ～ 1930 年代ドイツにおける家族保護ワーカーの活動から」『比較家族史研究』25 号、2010 年
「ドイツ―キーワードとしての『市民社会』」（フィランスロピーの研究動向の整理と文献紹介［1］）『大原社会問題研究所雑誌』626 号、2010 年
「第一次世界大戦後ドイツにおける民間社会事業――福祉国家との共存をめぐって」『現代福祉研究』5 号、2005 年

［所 属 学 会］日本西洋史学会、史学会、ドイツ現代史学会、ジェンダー史学会、障害学会、社会事業史学会

林　田　伸　一　　教授

［担　　当］フランス史
［2023 年 4 月 1 日現在］69 歳
［最 終 学 歴］1984 年 9 月　東京大学大学院人文科学研究科 西洋史学専門課程 博士課程単位取得満期退学
［専 門 分 野］フランス近世国制史。中世とも近代とも異なる近世に独自の国家のあり方を明らかにすることに、関心をもっています。現在は、国王地方行政の前線にあって各地の

住民と直に接触していた地方長官補佐という存在に焦点をあて、彼らを通してフランス絶対王政の統治の実態を考察しようとしています。

［著　　書］『ルイ十四世とリシュリュー』山川出版社、2016 年

［共　　著］「最盛期の絶対王政」柴田三千雄ほか編『世界歴史大系　フランス史 2』山川出版社、1996 年

「近世のフランス」福井憲彦編『世界各国史・フランス史』山川出版社、2001 年

「ロラン・ムーニエと絶対王政期のフランス」二宮宏之・阿河雄二郎編

『アンシアン・レジームの国家と社会』山川出版社、2003 年

「近世のフランス」佐藤彰一・中野隆生編『フランス史研究入門』山川出版社、2011 年

『都市から見るヨーロッパ史』放送大学教育振興会、2021 年（「序論」、第 12 章～第 15 章を担当）

［論　　文］「フランス絶対王政下の都市自治権－アミアンを中心として－」

『史学雑誌』第 87 編第 11 号、1978 年

「フランス絶対王政期の地方長官補佐について―アンジェ管区を中心に―」（一）（二）、『ヨーロッパ文化研究』第 24 集、2005 年；30 集、2011 年

「フランス絶対王政期における国務会議裁決と行政の技術」

『成城文藝』第 214 集、2011 年

［翻　　訳］R. デシモン「貴族は「種族」か社会関係か？―近世フランスの貴族を捉えるための新しい方法を探る―」『思想』2004 年 3 月号（959 号）

［所 属 学 会］史学会、日仏歴史学会

［連　絡　先］hayashid[at]seijo.ac.jp

明　星　聖　子　　教授

［担　　当］近現代ドイツ文学

［最 終 学 歴］1998 年　東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了

［取 得 学 位］1998 年　博士（文学）東京大学

［専 門 分 野］20 世紀のドイツ語圏文学。とくにフランツ・カフカについて、遺稿編集に関する問題を中心に研究を進めている。編集文献学という新しい学問分野についても、人文学の様々な分野の研究者たちと共同研究に取り組んでいる。

［著　　書］『カフカらしくないカフカ』、慶應義塾大学出版会、2014 年

『新しいカフカ―「編集」が変えるテクスト』、慶應義塾大学出版会、2002 年

［共　編　著］『テクストとは何か―編集文献学入門』、慶應義塾大学出版会、2015 年

［訳　　書］『人文学と電子編集―デジタル・アーカイヴの理論と実践』ルー・バーナード他編著（共訳）、慶應義塾大学出版会、2011 年

『グーテンベルクからグーグルへ―文学テキストのデジタル化と編集文献学』ピーター・シリングスバーク著（共訳）、慶應義塾大学出版会、2009 年

『カフカ』（「一冊でわかる」シリーズ）リッチー・ロバートソン著、岩波書店、

2008 年
『僕の旅』シュテン・ナドルニー著、同学社、1998 年
［論　　文］「「逮捕」と「終わり」をどう並べるか―カフカ『審判／訴訟』の編集･翻訳プロジェクト―（共著）、『成城文藝』第 257 号、2021 年
「「第 3 世代」としての編集―カフカ『審判／訴訟』の編集・翻訳プロジェクト」、『埼玉大学紀要・教養学部』第 55 巻・第 1 号、2019 年
「「翻訳可能なテクスト」の編集をめぐる諸問題―カフカ『審判／訴訟』の新翻訳プロジェクト」（共著）、『埼玉大学紀要・教養学部』第 55 巻・第 1 号、2019 年
「編集文献学の可能性」（特集「編集文献学への誘い」）、『書物学』17 号（勉誠出版）、2019 年
「カフカ研究の憂鬱―高度複製技術時代の文学作品」、『貴重書の挿絵とパラテクスト』（松田隆美編、慶應義塾大学出版会）、2012 年
The Functions of “Zenshu” in Japanese Book Culture: Practices and Problems of Modern Textual Editing in Japan, *Variants* 10, 2013.
「境界線の探究―カフカの編集と翻訳をめぐって」、『文学』第 13 巻 4 号（岩波書店）、2012 年
Textual Scholarship as a Bridge “between Philology and Hermeneutics”: Discussing the Translation of Terminology, *Proceedings of the 11th International Conference “Between Philology and Hermeneutics”* (Nagoya University), 2011.
「編集の善悪の彼岸―カフカと草稿と編集文献学」、『文学』第 11 巻 5 号（岩波書店）、2010 年
［所 属 学 会］日本独文学会、日本オーストリア文学会、The European Society of Textual Scholarship
［連　絡　先］kiyoko.myojo[at]seijo.ac.jp

時　田　郁　子　　准教授
［担　　当］ドイツ語学文学
［2023 年 4 月 1 日現在］44 歳
［最 終 学 歴］2008 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野博士課程修了
［取 得 学 位］2008 年 4 月　博士（文学）東京大学
［専 門 分 野］ドイツ語圏文学。十九・二十世紀の文学作品を中心に、近代ドイツ語圏文学に見られる神秘主義の傾向をヨーロッパ精神史に関連づけて探っている。
［著　　書］『ムージルと生命の樹―「新しい人間」の探究』松籟社、2012 年。
［論　　文］「デーブリーンの大地の歌―『ハムレットあるいは長き夜が終わる』における「新しい人生」」、『成城文藝』232 号、31-46 ページ、2015 年 9 月
「クラバートの魔法」、『ヨーロッパ文化研究』35 集、27-59 ページ、2016 年 3 月
「デーブリーン『一九一八年十一月』における「霊界」―ローザ・ルクセンブルク

の視霊体験」、『西日本ドイツ文学』、日本独文学会西日本支部、第 28 号、1-13 ページ、2016 年 11 月
「ドイツ革命と黒い光―デーブリーンの『一九一八年十一月』―」、『ヨーロッパ文化研究』36 集、61-81 ページ、2017 年 3 月
「ピアーキの最期―クライスト『拾い子』について―」『成城文藝』242 号、36-51 ページ、2017 年 12 月
「怪物と移動－怪物と移動―グリンメルスハウゼン『ドイツの冒険者ジンプリチシムス―』」『ヨーロッパ文化研究』37 集、129-152 ページ、2018 年 3 月
「ホムンクルスの秘密―ゲーテ『ファウスト』第二部第二幕」、『ヨーロッパ文化研究』38 集、91-116 ページ、2019 年 3 月
「ヨーロッパと新世界―デーブリーンの『アマゾン』―」、『成城文藝』248・249 号、9-33 ページ、2019 年 9 月
「クライスト『ハイルブロンのケートヒェン』の夢」、『ヨーロッパ文化研究』40 集、89-113 ページ、2021 年 3 月
「詩と魔術―ノヴァーリスの『青い花』―」、成城大学『経済研究』234 号、55-73 ページ、2021 年 12 月
［所 属 学 会］日本独文学会、日本オーストリア文学会、日本独文学会西日本支部
［連　絡　先］yt[at]seijo.ac.jp

有　田　英　也　　教授

［担　　当］フランス語学文学
［2023 年 4 月 1 日現在］64 歳
［最 終 学 歴］1990 年　東京大学大学院人文科学研究科フランス語フランス文学専攻博士課程単位取得退学
［取 得 学 位］1990 年 3 月　文学博士（パリ第 4 大学、通称ソルボンヌ）
［専 門 分 野］フランス 19 世紀末～ 20 世紀の小説と自伝。地域文化論的なアプローチを重視。［著書］［論文］［翻訳］に挙げた作家・思想家を専門とするが、とりわけ最近は、フランス近現代文学における「思春期」を研究テーマとする。
［著　　書］『政治的ロマン主義の運命～ドリュ・ラ・ロシェルとフランス・ファシズム』名古屋大学出版会　2003.
『ふたつのナショナリズム～ユダヤ系フランス人の「近代」』みすず書房　2000.
『セリーヌを読む』（富山太佳夫との共編著）国書刊行会　1998.
［論　　文］パリ第 4 大学文学博士号請求論文 Drieu la Rochelle et son acheminement vers un “roman-autobiographie”, 2 vol. 1990.
「モダニズムの反動性――ユンガー、セリーヌ、ドリュ・ラ・ロシェル」『岩波講座文学』第 10 巻所収、2003.
「母の国で語っているのは？――チュニジア出身フランス人の回想記」白百合女子大学言語・文学研究センター編『翻訳の地平　フランス編』所収、弘学社　2006.

「ユダヤ人とフランス人――エマニュエル・ベルルにみる自己了解の仕組みの自覚的変容」『思想』2009 年 6 月号.
「サルトルとユダヤ人」石崎晴己・立花英裕編『21 世紀の知識人』所収、藤原書店 2009.
「初期レヴィナスのファシズム論」竹沢尚一郎編『宗教とファシズム』所収、水声社　2010.
「フランス知識人の後衛から」塚本昌則・鈴木雅雄編『〈前衛〉とは何か？〈後衛〉とは何か？』所収、平凡社、2010.
「サルトル『ユダヤ人問題の考察』再読」『思想』2013 年 8 月号・9 月号
「言語･歴史･性 ― アシア･ジェバールの『愛、ファンタジア』『父の家に居場所なく』における個人的な事情の再話」『ヨーロッパ文化研究』第 42 集、2023.
「小説版＜ファミリー・ヒストリー＞：ターハル・ベン・ジェルーンとレイラ・スリマニの近作に見るモロッコ現代史の暗部」『Azur』第 24 号、2023.

［翻　　訳］O. ヴォルタ『書簡から見るサティ』（共訳）中央公論社　1993.
ドリュウ・ラ・ロシェル『日記 1939―1945』メタローグ　1994.
B. フランク『ドリュ・ラ・ロシェル』水声社　1997.
オリヴィエ・トッド『アルベール・カミュ〈ある一生〉』（共訳）毎日新聞社 2001.
ジョナサン・リテル『慈しみの女神たち』（共訳）集英社 2011.（日本翻訳出版文化賞）
P. モディアノ『エトワール広場／夜のロンド』作品社 2016.

［所 属 学 会］日本フランス語フランス文学会
［連　絡　先］harita6120[at]gmail.com

滝　沢　明　子　　准教授

［担　　当］広域芸術論研究
［2023 年 4 月 1 日現在］45 歳
［最 終 学 歴］パリ第 7 大学博士課程
［取 得 学 位］博士（テクストとイメージの歴史と記号学）パリ第 7 大学
［専 門 分 野］20 世紀フランス批評、現代芸術、写真論。特にロラン・バルトを対象として、創作行為と作家の「生」の関係、写真論、現代芸術論について研究している。また 20 世紀のフランス文学における写真の役割というテーマにも関心をもっている。
［共著書　等］『『明るい部屋』の秘密―ロラン・バルトと写真の彼方へ』、青弓社、2008 年
Barthes, Fayard, 2010 年
『フランス文化事典』、丸善出版、2012 年
『写真と文学　何がイメージの価値を決めるのか』、平凡社、2013 年
『フランス文化読本』、丸善出版、2014 年
『フランス文学史 II』、慶應義塾大学出版会、2016 年

『フランス文学を旅する 60 章』、明石書店、2018 年

［論　　文］« La représentation de « l'humain » ― L'expérience du Japon chez Roland Barthes », Travaux en cours n° 6, Université Paris-Diderot -U.F.R. L.A.C, 2011

« La réception des ouvrages sadiens chez Roland Barthes ― Le rapprochement de Sade et de Proust », Revue de langue et littérature françaises n° 41, Société de Langue et Littérature Françaises de l'Université de Tokyo, 2011

« Mise en œuvre de Roland Barthes - La présence de la vie et l'absence du roman »、パリ第 7 大学提出博士論文、2012 年

「『喪の日記』から『明るい部屋』へ ―「温室の写真」をめぐるフィクション」、『仏語仏文学研究』第 46 号、東京大学仏語仏文学研究会、2013 年

「バタイユの読者ロラン・バルト― バルトにとってバタイユとは何か」、『慶應義塾大学日吉紀要　フランス語フランス文学』第 58 号、慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会、2014 年

「「作家」という幻想―ジッドに憧れたロラン・バルト」、『仏語仏文学研究』第 49 号　塩川徹也先生古希記念特集号、東京大学仏語仏文学研究会、2016 年

「『明るい部屋』の源流をさぐる―ロラン・バルトはいつから写真に関心を抱くようになったのか？」、『成城文藝』254 号、2020 年

「ロラン・バルトのギリシア―官能の果実―」、『ヨーロッパ文化研究』第 41 集、成城大学大学院文学研究科、2022 年

« L'art de vivre des écrivains : Barthes et le roman », dans *Le quotidien au Japon et en Occident - Textes réunis par Fabien Arribert-Narce, Revue des Sciences Humaines* 345, Presses Universitaires de Septentrion, 2022

「ロラン･バルト『明るい部屋』のなかのボードレール「現代の公衆と写真」――「驚き」と「ヌーメン」」、『ヨーロッパ文化研究』第 42 集、成城大学大学院文学研究科、2023 年

［所 属 学 会］日本フランス語フランス文学会、美学会

［連　絡　先］meikot[at]seijo.ac.jp

2024年度
成城大学大学院
文学研究科入学願書

整理番号※2
受験番号※2

1．受験関係事項及び志願者情報

募集時期（○で囲む）	Ⅰ期・Ⅱ期	志望専攻		入試区分（○で囲む）	一般・社会人 内部推薦・教員推薦
志望課程（○で囲む）	前期・後期				
卒業論文 ※3	題目： 指導教員名：				
修士論文 ※3	題目： 指導教員名：				
希望指導教員※4		希望分野 ※4			
受験科目	一般語学		最も得意な言語（○で囲む）	日本語 日本語以外（　　語）	
	専門科目 ※5				

写 真

1．4cm×3cm（カラーに限る）
2．正面脱帽・背景なし
3．提出日前３か月以内撮影のもの
4．全面糊付すること

氏名※6	フリガナ		
生年月日	西暦　　年　　月　　日（満　　歳）　書類提出時	性別	
書類送付先住所※7	〒		
携帯電話	（　　）　　―	電話	（　　）　　―
E-mail	メールアドレスに数字がある場合、数字の下に下線を引くこと		

注）※１．黒のペンまたはボールペンで、必要事項を記入または○で囲むこと。
※２．整理番号欄及び受験番号欄は記入しないこと。
※３．卒業論文、修士論文を作成していない者、完成していない者は空欄で構わない。
※４．希望指導教員は、＜専任教員の紹介＞の教員から選択すること。希望分野は、希望指導教員の［担当］を記入すること。
※５．日本常民文化の前期志願者は、第１・第２選択の別を明記し番号を振ること。
国文学専攻、コミュニケーション学専攻の志願者は専門科目の記入は必要ない。
※６．氏名欄は、在留カードまたはパスポートに記載されているとおりに記入すること。また、漢字使用圏出身の者は、漢字氏名も併記すること。
※７．書類送付先住所は、日本国内とし入学手続書類が確実に届くところを記入すること。

― 「2. 学歴及び職歴」も必ず記入し提出すること ―

2．学歴及び職歴

学歴は、すべて記入すること。日本語学校での学習歴がある者は、その期間も記入すること。
卒業（修了）または卒業（修了）見込の欄は、どちらかに〇で囲むこと。

学歴	西暦 年 月	出身校所在地	国名	高等学校			卒業
	西暦 年 月		国名	大学	学部	学科	入学
	西暦 年 月		国名	大学	学部	学科	卒業 卒業見込
	西暦 年 月		国名	大学院	研究科	専攻	入学
	西暦 年 月		国名	大学院	研究科	専攻	修了 修了見込
	西暦 年 月		国名				
	西暦 年 月		国名				
	西暦 年 月		国名				
	西暦 年 月		国名				
	西暦 年 月		国名				
	西暦 年 月		国名				
	西暦 年 月		国名				

職歴は、職務経歴を持つ者のみ記入すること。

職歴	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	
	西暦 年 月	

交　　通

最寄り駅は小田急線「成城学園前」駅。中央改札口(北口)から歩いて約４分です。
●小田急線・新宿駅より急行(下り)で約15分、登戸駅より急行(上り)で約５分、
町田駅より急行(上り)で約20分
●東京メトロ千代田線・新御茶ノ水駅より代々木上原経由、小田急線直通で約30分
●京王井の頭線・渋谷駅より下北沢経由、小田急線のりかえで約15分

（ご注意）
小田急線「快速急行」は通過となりますので、乗車には十分ご注意ください。

大　学　校　舎　案　内

■大学正門■

https://admission.seijo.ac.jp

発行：成城大学入学センター
〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20

TEL. 03-3482-9100　FAX. 03-3482-9618
E-mail.admission@seijo.jp